

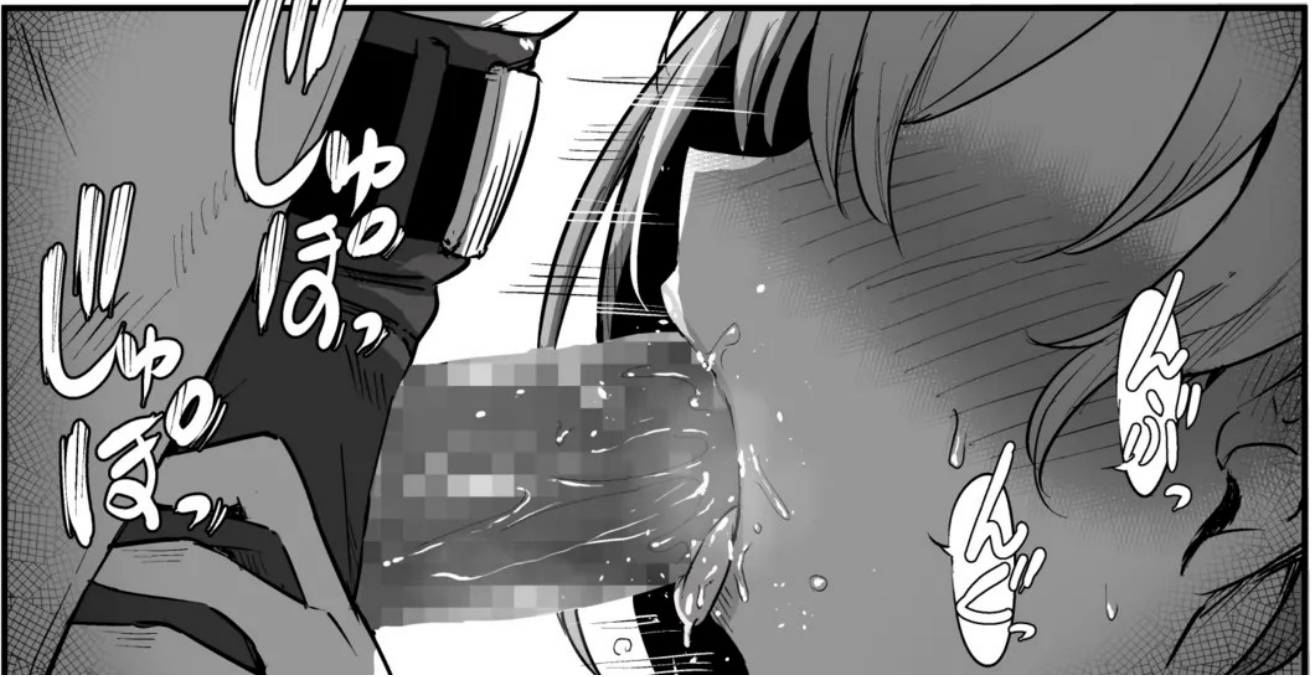
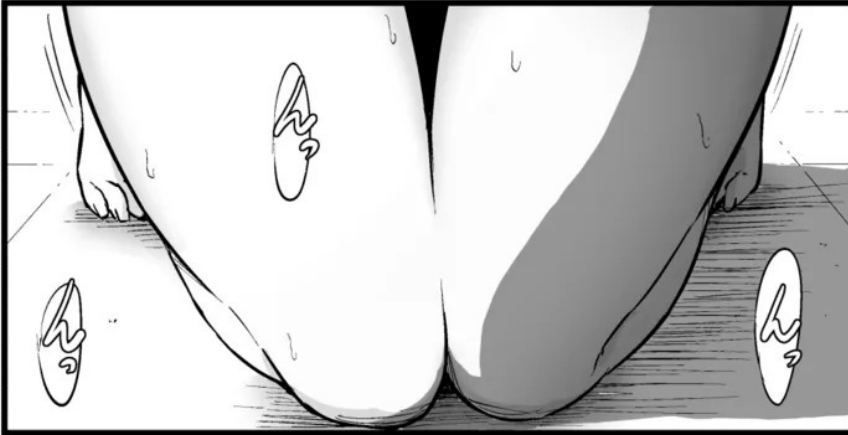
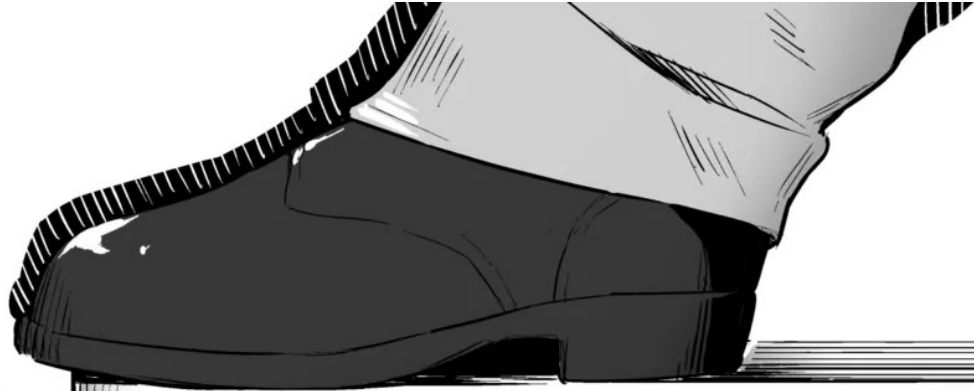
化学  
準備室の罪  
3

—堕ちていくふたり—

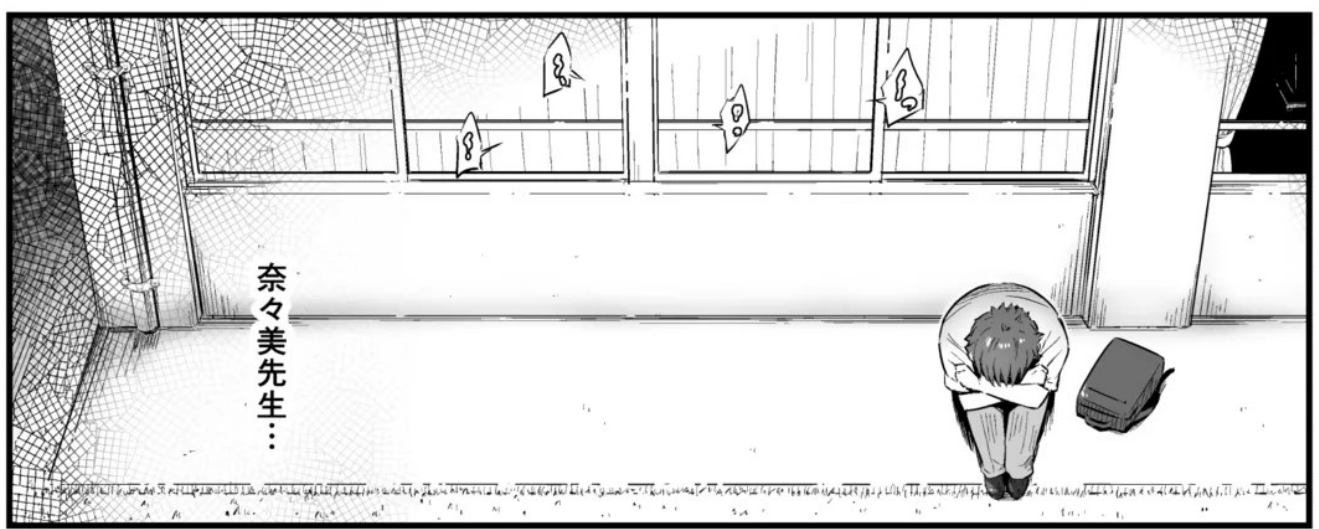
女教師NTR  
90P  
本編



なんで...

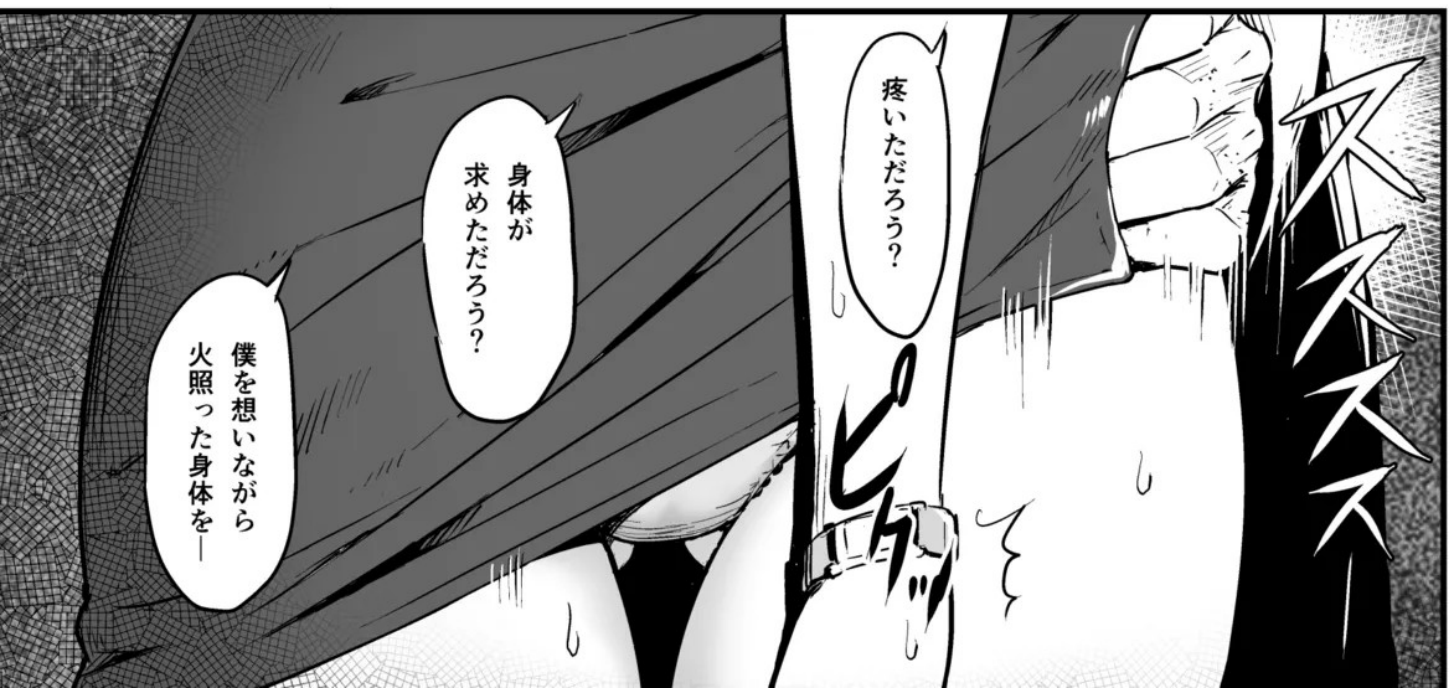
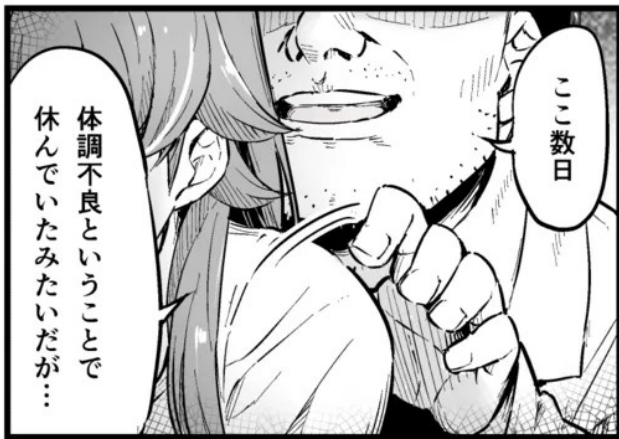
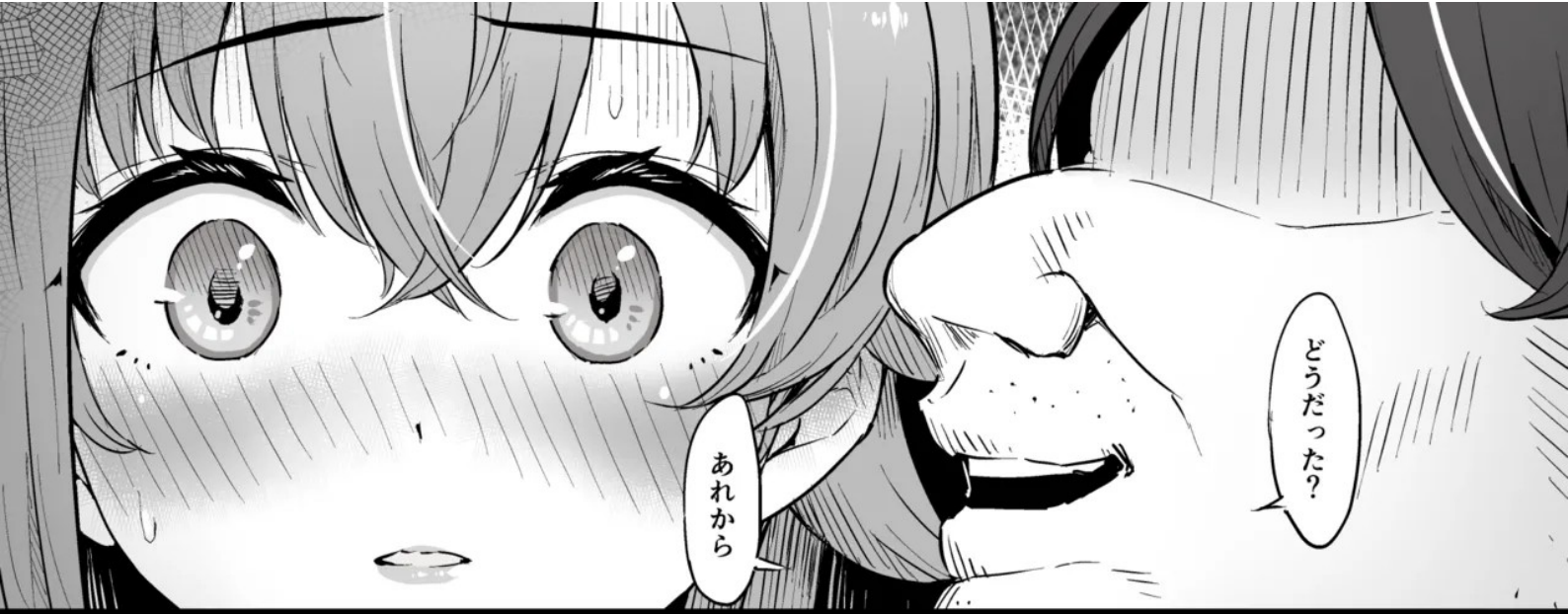






奈々美先生...









自分で慰めて  
満足できたのか？

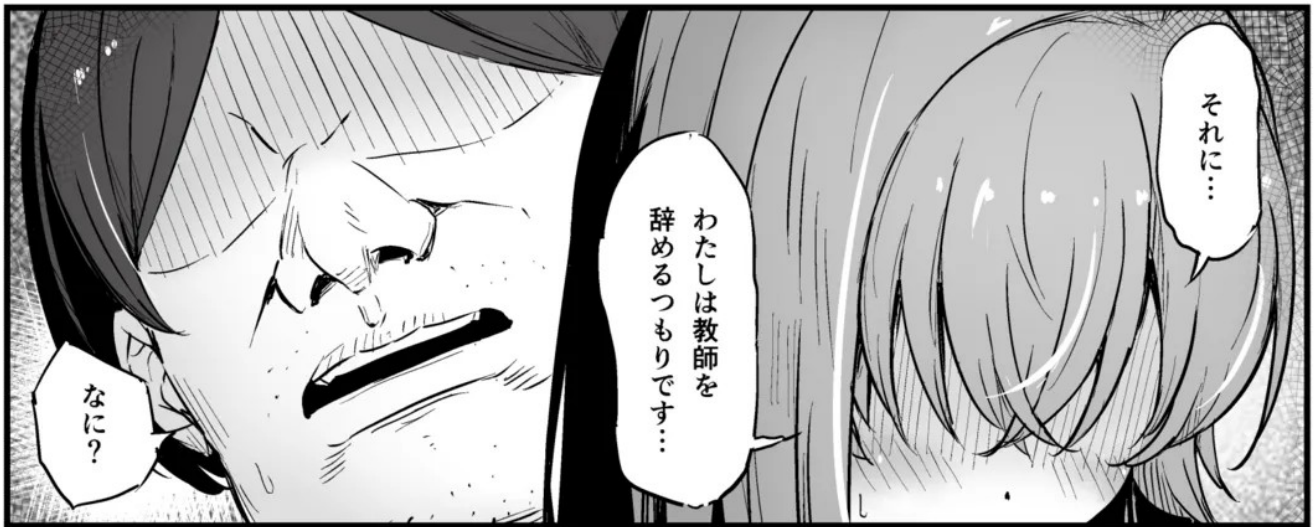


本当はこれを  
期待して来たんだろ？



ありません……っ！

そんなこと……



なに？

わたしは教師を  
辞めるつもりです……

それに……



まだ辻を  
気にするのか……？！



あんなところを  
辻くん……

生徒に  
見られたんです

ここにはもう  
居られません……



心配するな

大丈夫だ  
学校にはバレない

そういう…

問題じゃ…

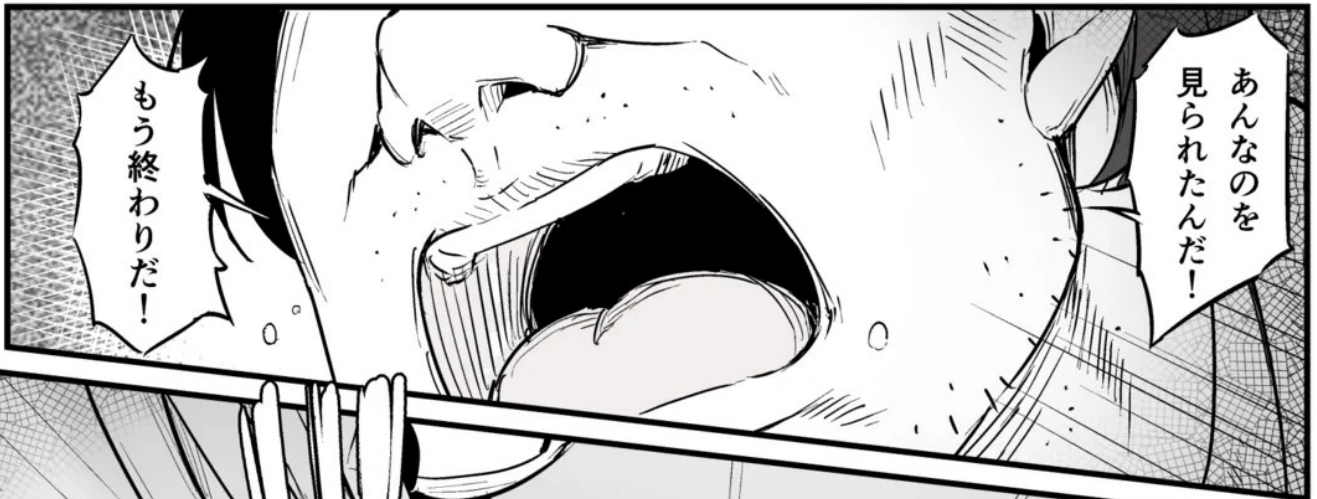


録画してた  
あの時の映像を  
確認したが

あいつ  
柵に隠れて  
見たのな

……

でもあいつは  
黙っているじゃないか



あんなのを  
見られたんだ!

もう終わりだ!



いい加減  
辻は忘れろっ!!

思い出せっ！

これで腔内なかを  
掻き回されたことを！

思い出せっ！

誰に気持ちよく  
させて貰ったかを！

辻では無理なんだ！

僕じゃなきゃ  
ダメなんだっ！

辻なんか見るなっ！

僕だけを見ろっ！！

僕を愛せっ！！

.....っ



どうせ約束の相手は  
居ないんだ

おまえと辻の件  
口が滑りそうだ!

そんなんっ!



奈々美が  
居なくなるなら

約束なんか守らなくても  
問題無いよな?!

ふくんそうか!



また  
辻の為だと...?

くそ.....っ

意地でも  
僕のものには  
ならないつもりか...っ!



わかりました...

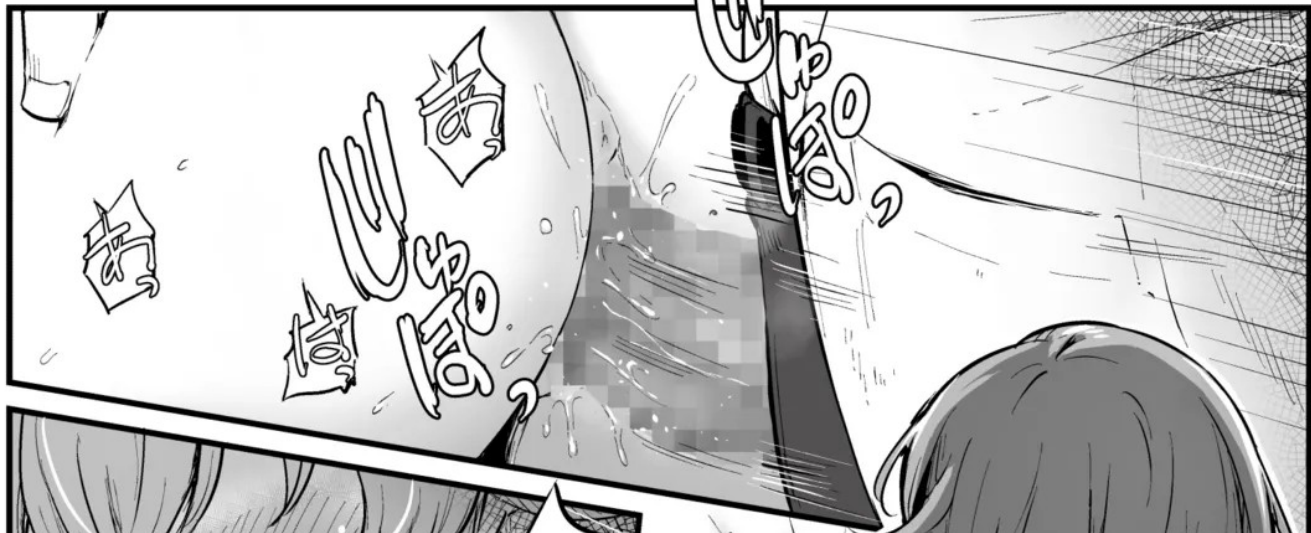
辻くんが  
卒業するまで...

その期間だけ.....



奈々美...

服を脱げ



だからこうやって

僕にまた身体を委ねてるんだ!



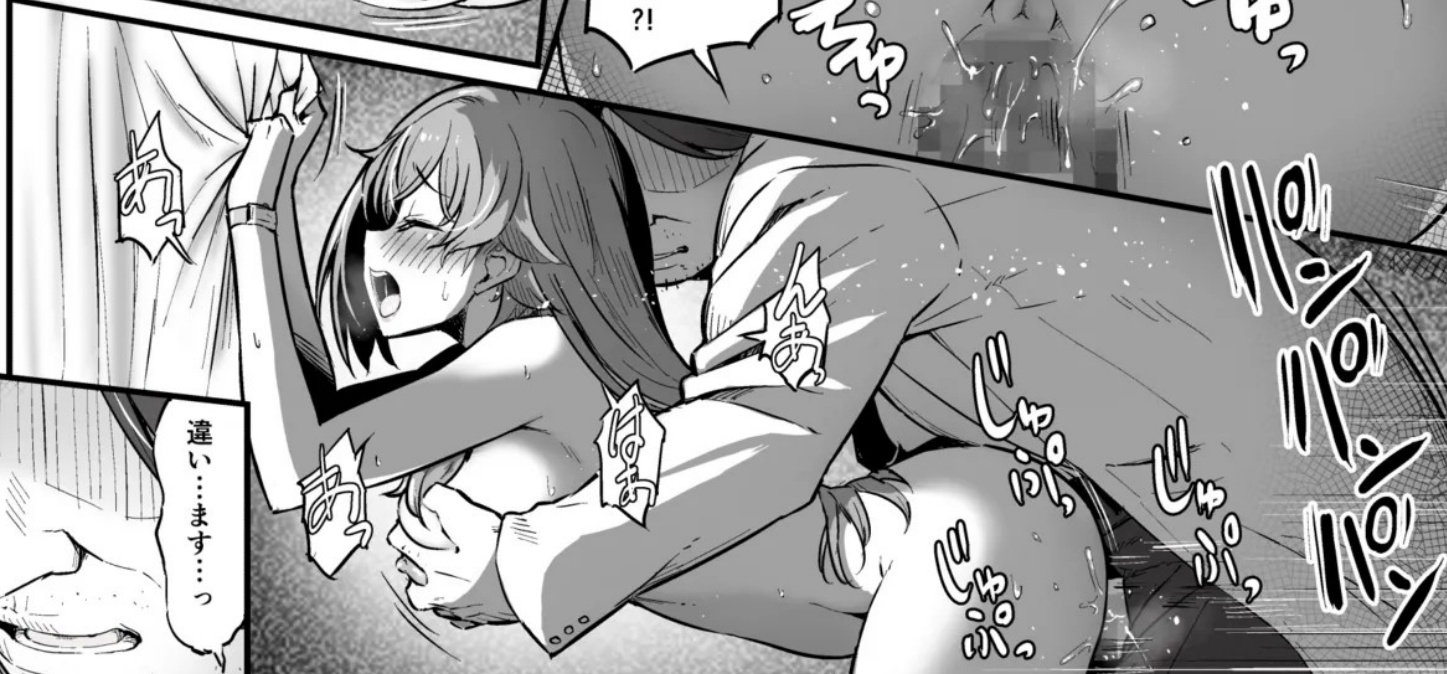
もう僕のことを愛おしくてたまらないだろっ?!



気持ちいいだろ 奈々美っ!

どうだっ!

思い出したかっ!?



違う…失す…

これは…

辻くんを守る為…

ですっ



また辻っ!

辻っ!!

辻っ!!



今録画しているデータを  
辻に送ってやろう

それであいつも  
奈々美に感謝するだろう!

そんなっ!

ならそんながんばってる  
奈々美の姿を

そうか!

辻にもまた  
見せてやらなければな!



それだけは  
許してください!

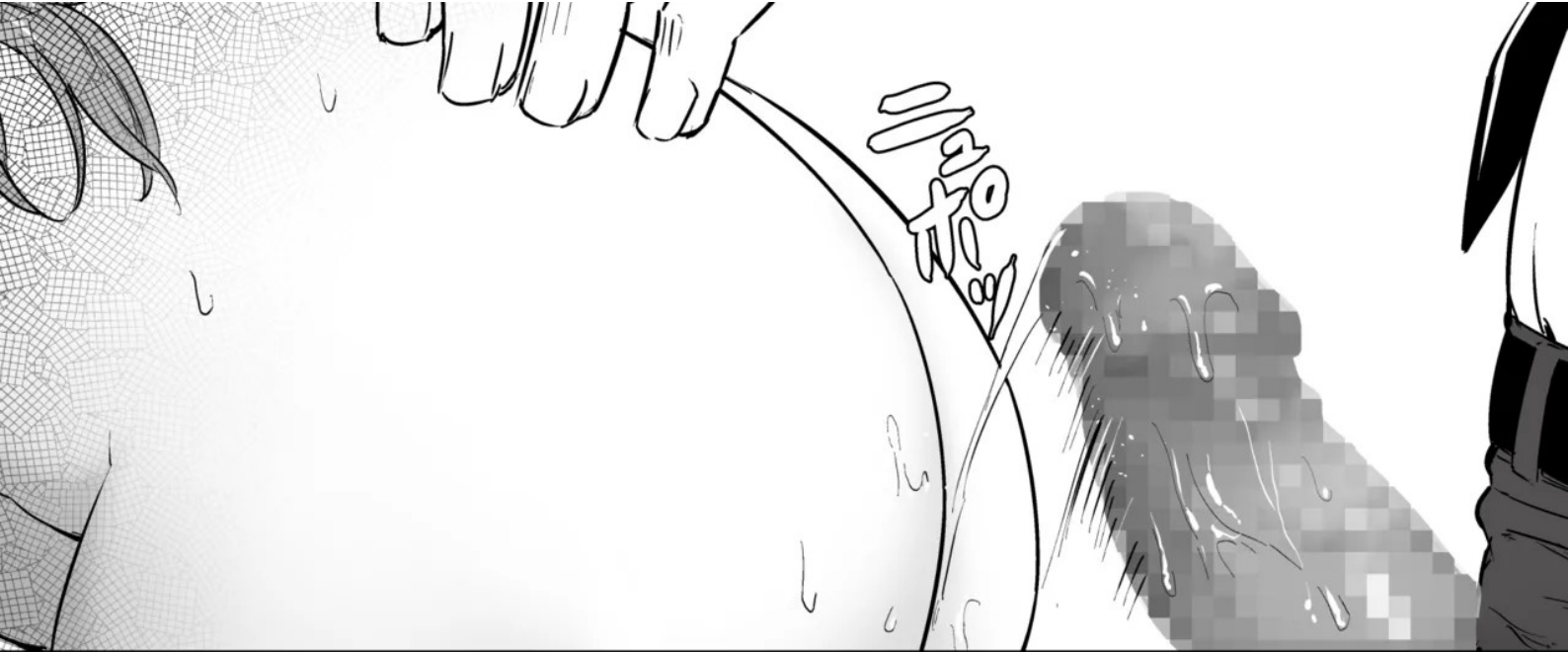
これ以上辻くんを  
傷付けたくない!

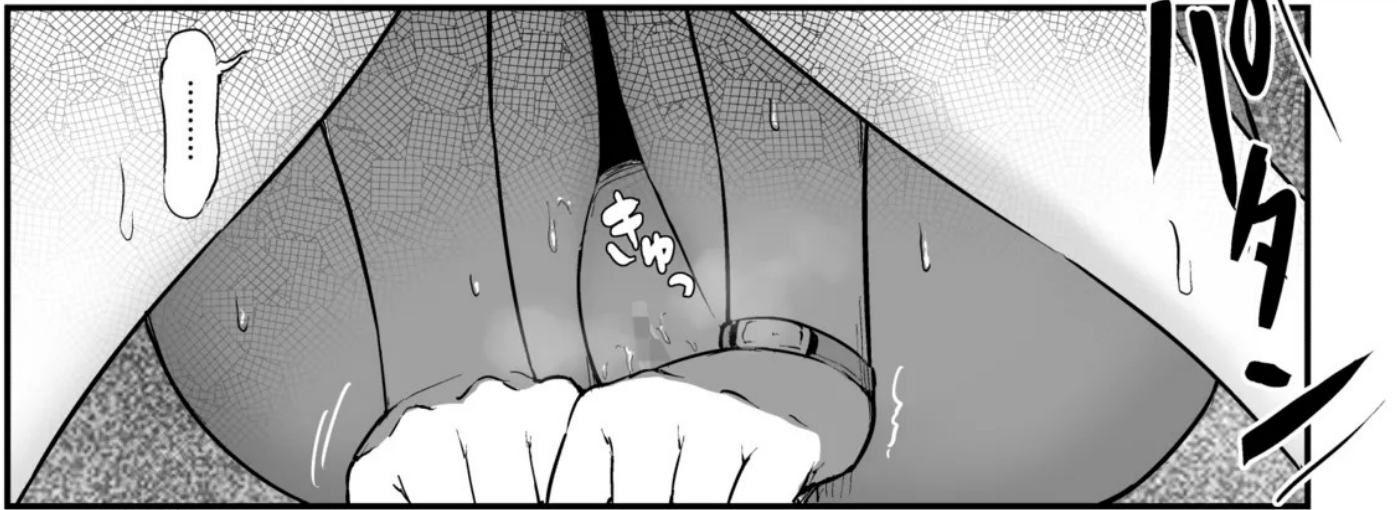
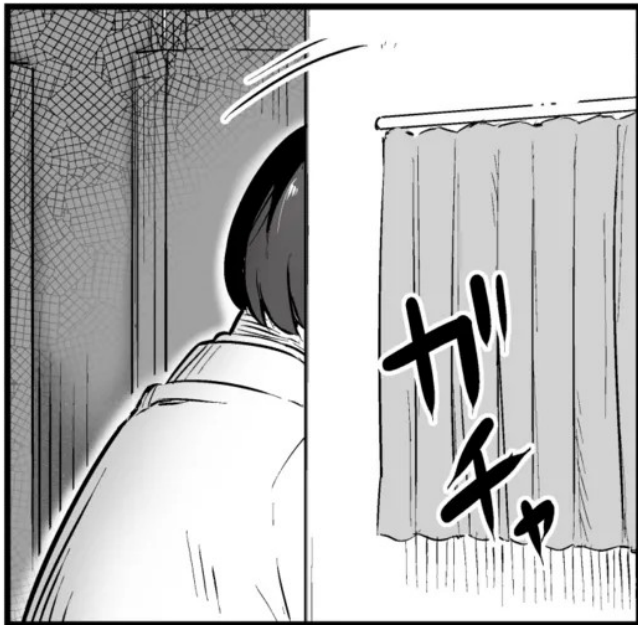
うるせー!!

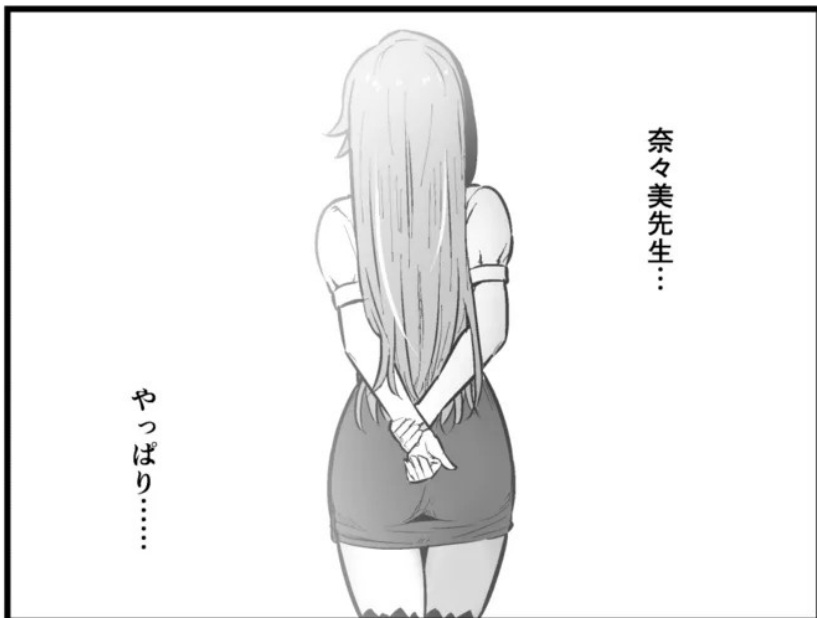


えっ?!













おまえ

あの時  
準備室にいたな？



奈々美先生は…

たぶん  
オレの為に…

だからオレはっ！



あ…

あの時…？

ふふ…

なんで学校に  
報告しない？

奈々美の為か？



本当にそう思うか？

違うぞ？

奈々美が僕を  
愛しているからだ



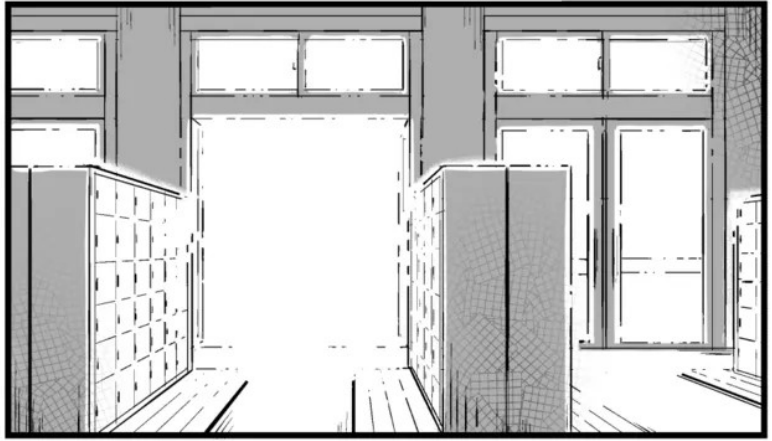
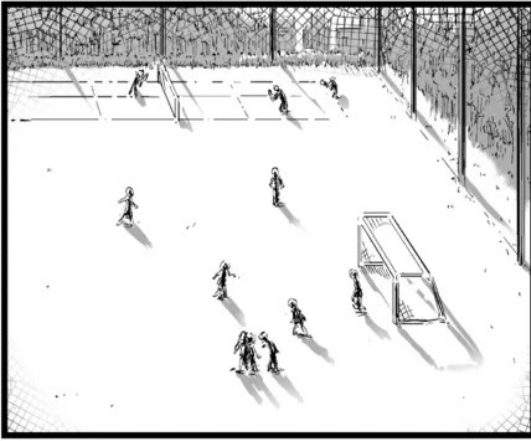
はあ？！

おまえが何かで  
奈々美先生を脅して

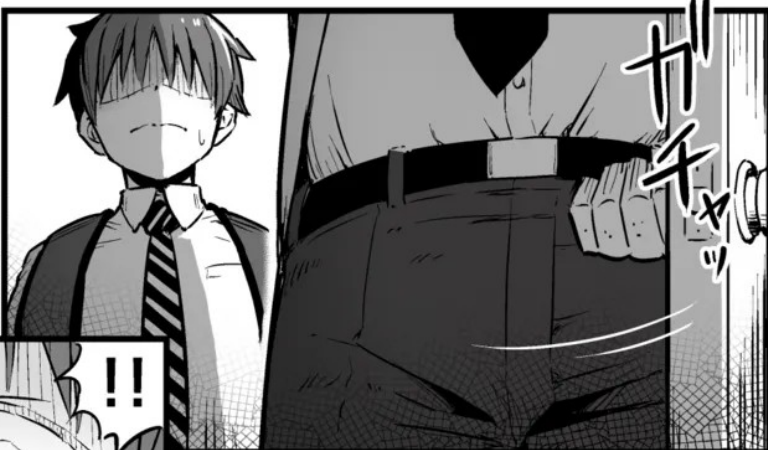
こんなことに  
なってるだけだろ！

バカなこと言うな！



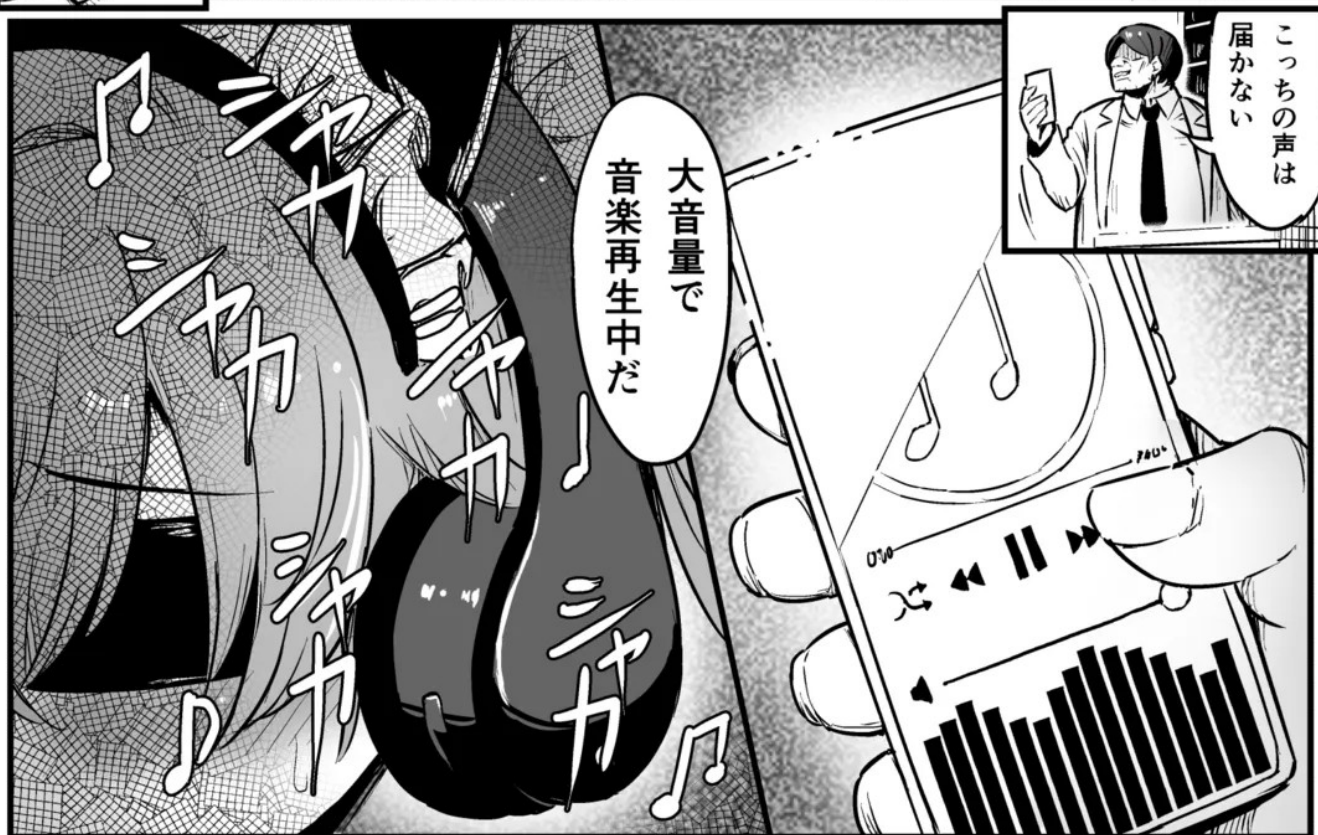


# 化学準備室





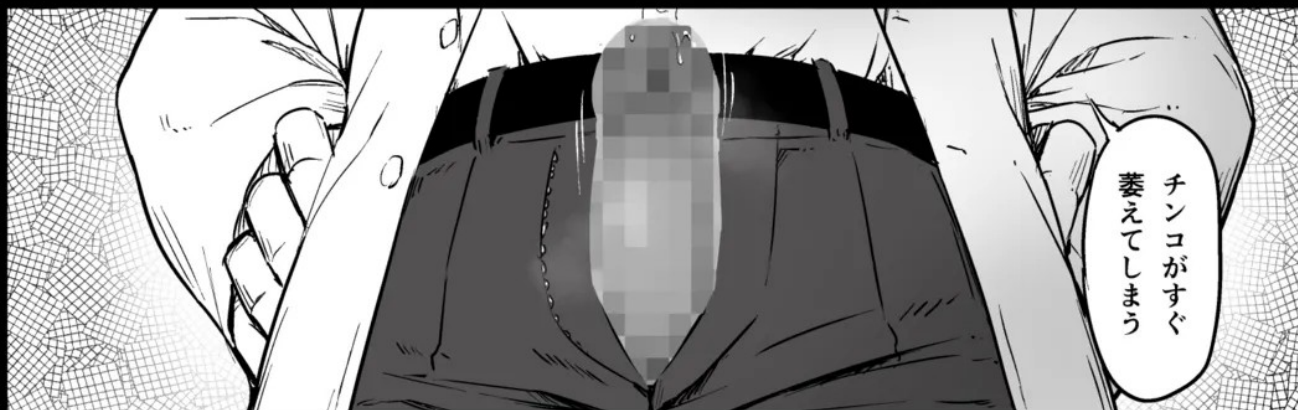
奈々美先生…?!













そんなに熱く  
見つめて

どうした？



そうか  
そうか

そんなに  
僕のチンポを  
挿れて  
欲しいのか



僕のチンポが  
そんなに欲しいのか？

そ…  
そんな…こと…



仕方ない

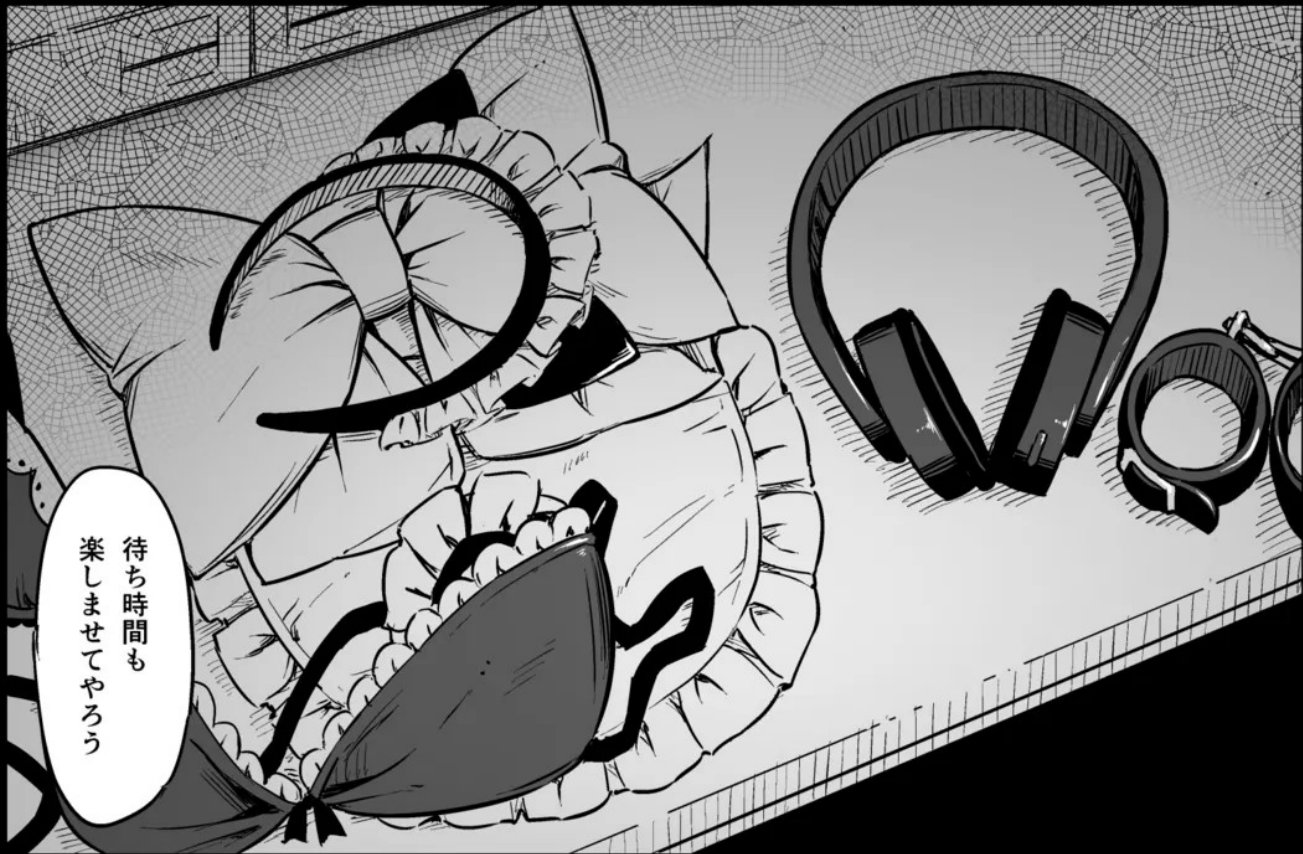
これから  
用事があるのでな

それを済ませた後で  
楽しませてやる



ただ待ってるのも  
あれだろう

しかし



待ち時間も  
楽しませてやろう



僕を待って  
いただけろ？

ほら



わかったか？

奈々美と僕は  
そういうことなんだ

.....

だが  
おまえも  
心残りが  
あるだろう

？



1回だけだ

憧れの奈々美先生を  
味合わせてやる

はあ?!

ふ...  
ふざけんな...

いいぞ

いのか?

奈々美を好きにして

?!

こんなチャンスは  
もう来ないぞ?





奈々美先生と

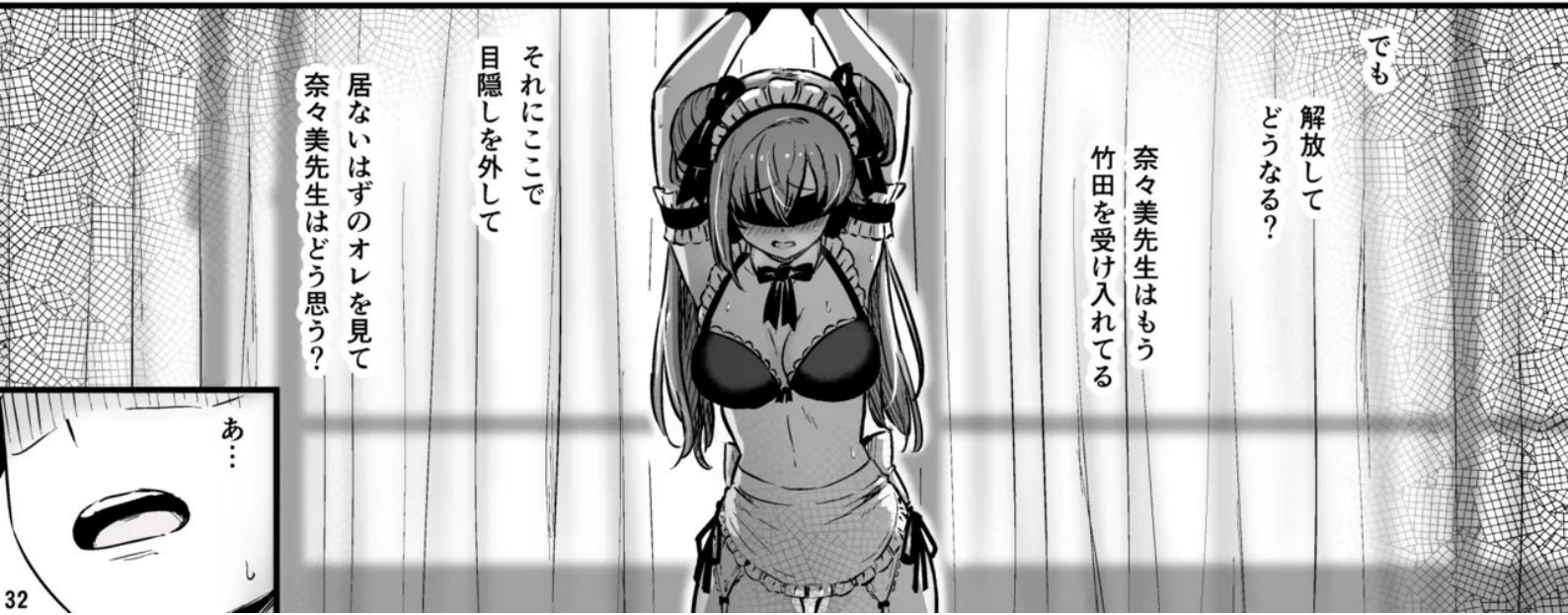
二人っきり



竹田が  
居ない今なら

奈々美先生を  
解放できるじゃないか!

そうだ...



でも

解放して  
どうなる?

奈々美先生はもう  
竹田を受け入れてる

それにここで  
目隠しを外して

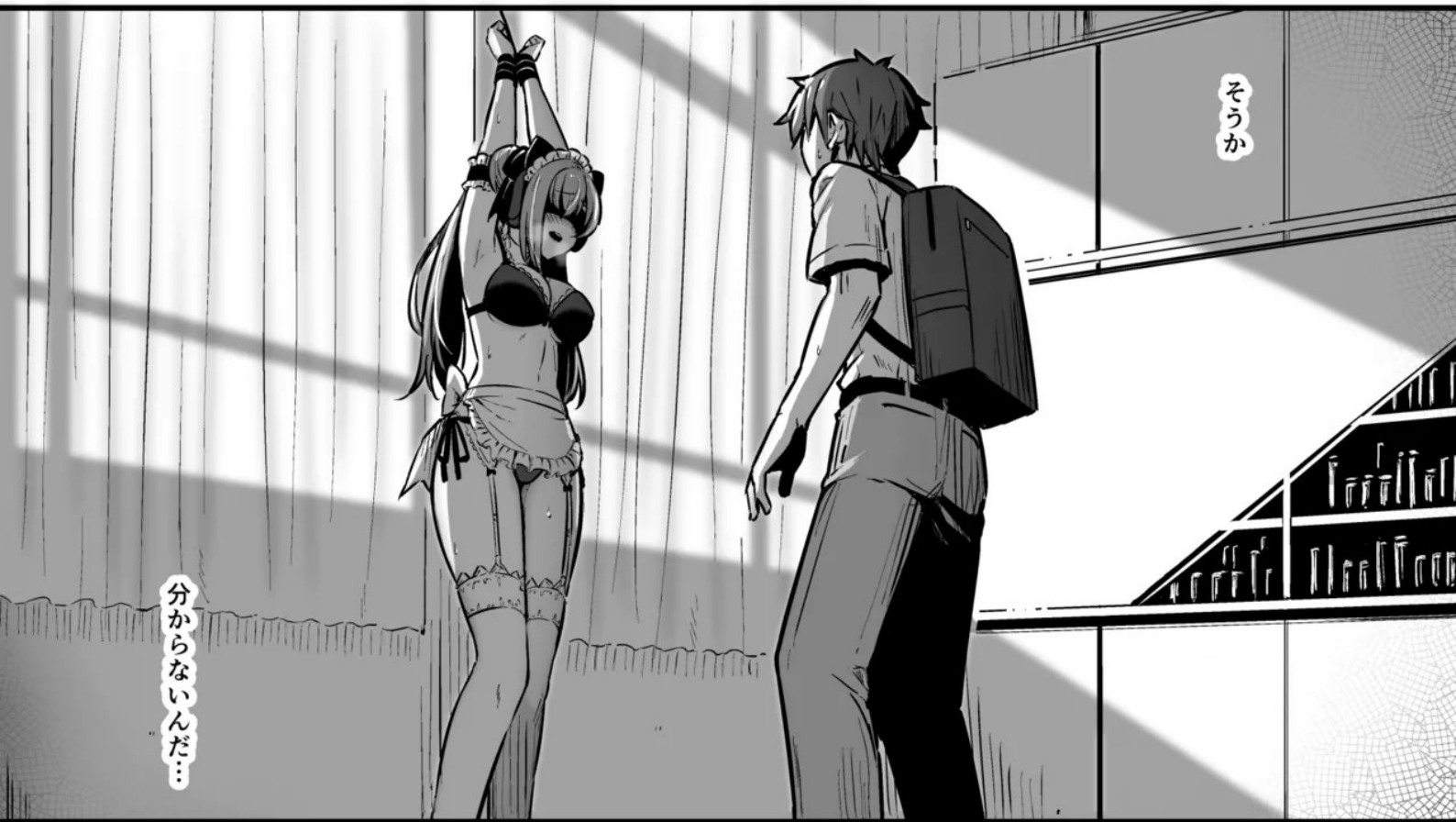
居ないはずのオレを見て  
奈々美先生はどう思う?

あ...



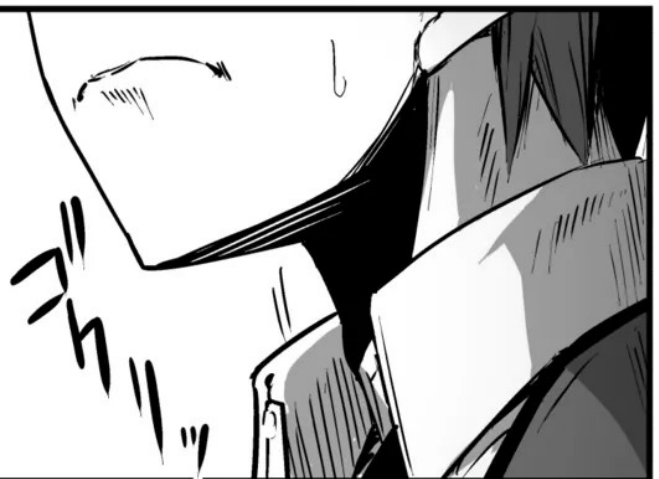
今ここに居るのは  
オレだと

分からないんだ



そうか

分からないんだ…





奈々美先生…



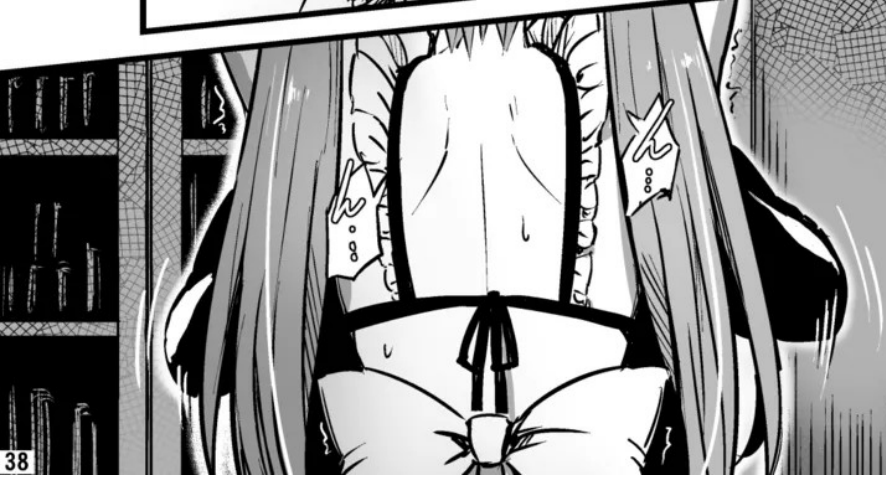
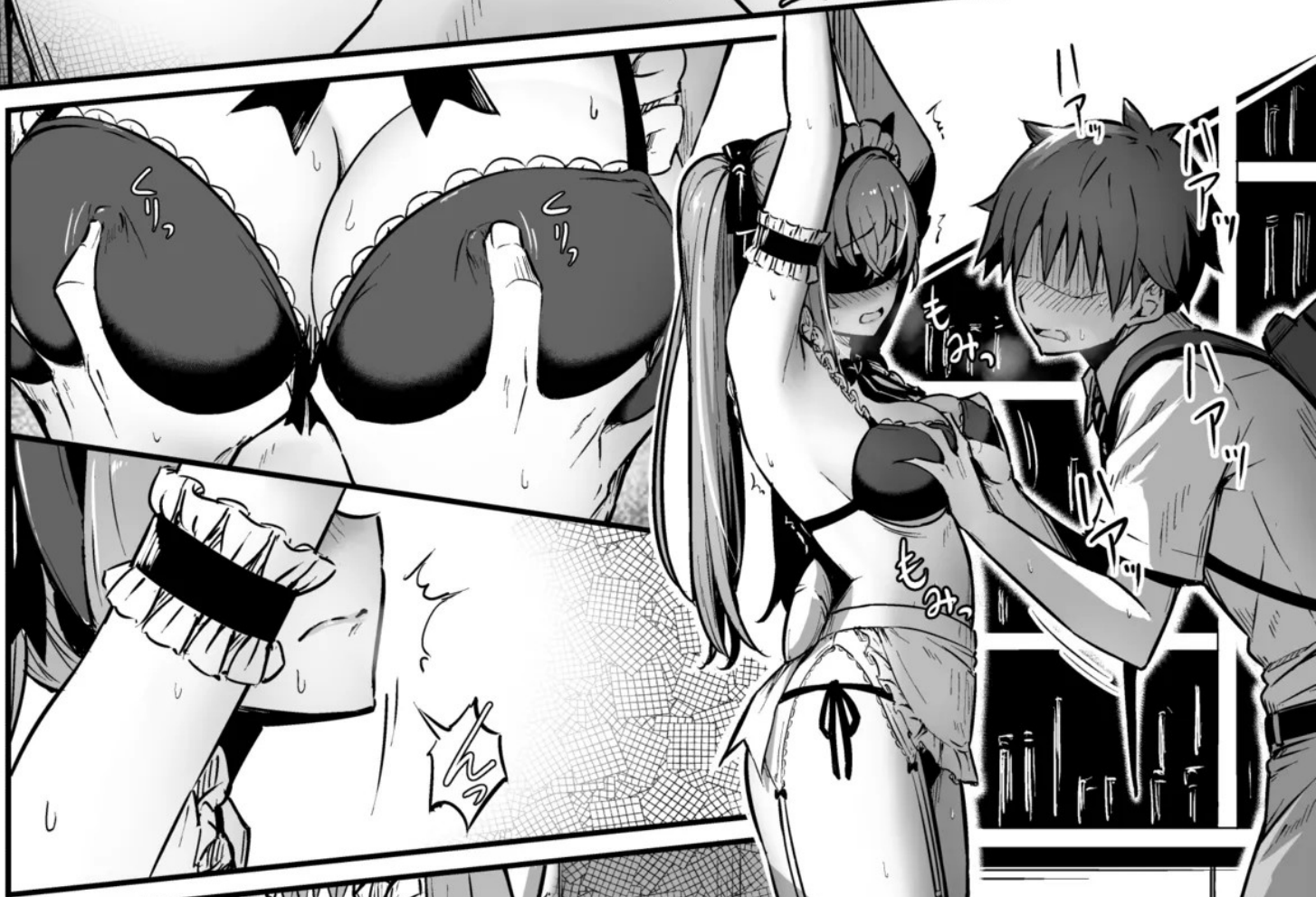
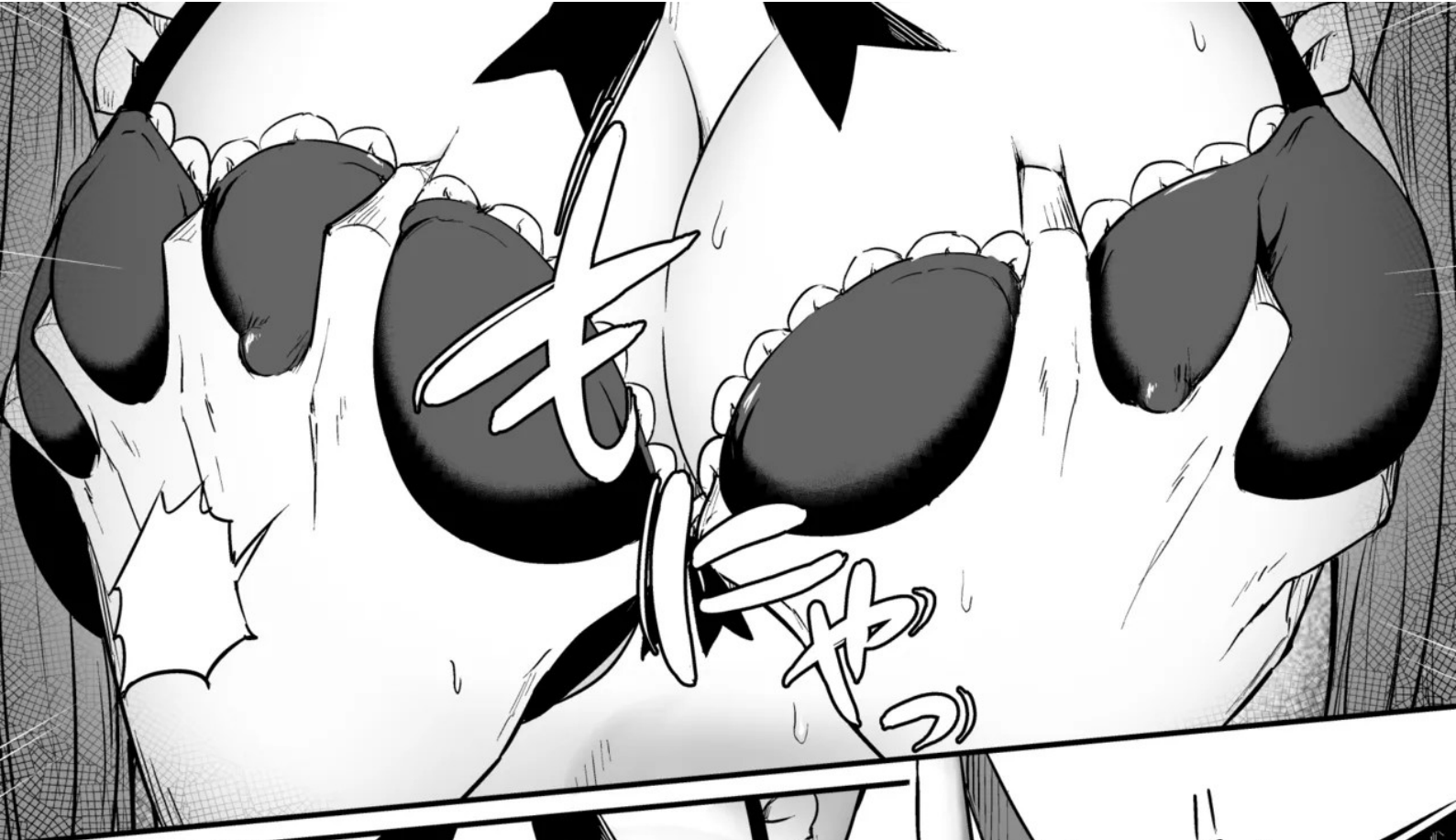


奈々美先生…っ！



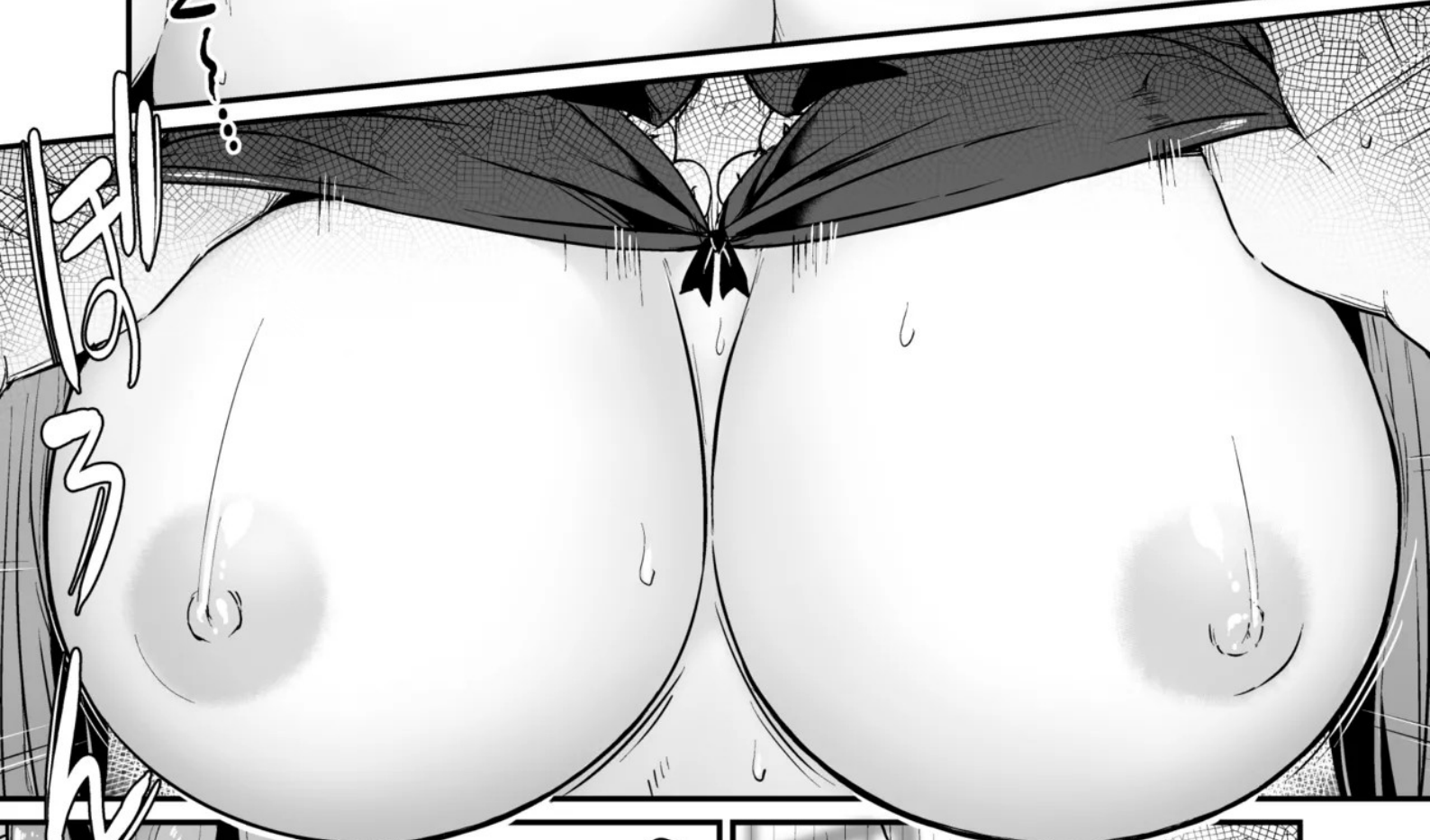
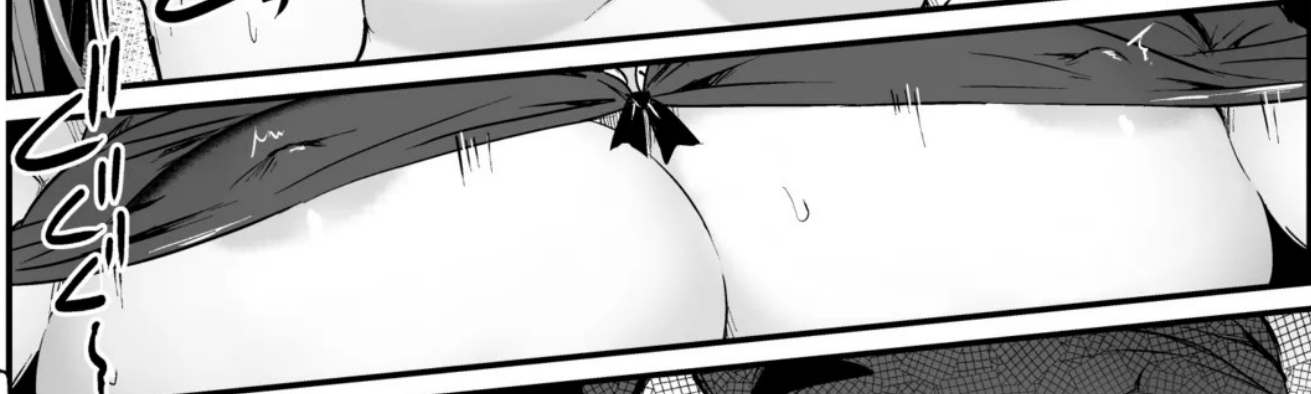








はあ...っ



ああ...



あ...

奈々美先生っ！

奈々美先生っ！

奈々美先生っ！

この甘い香りの

いつも隣でっ

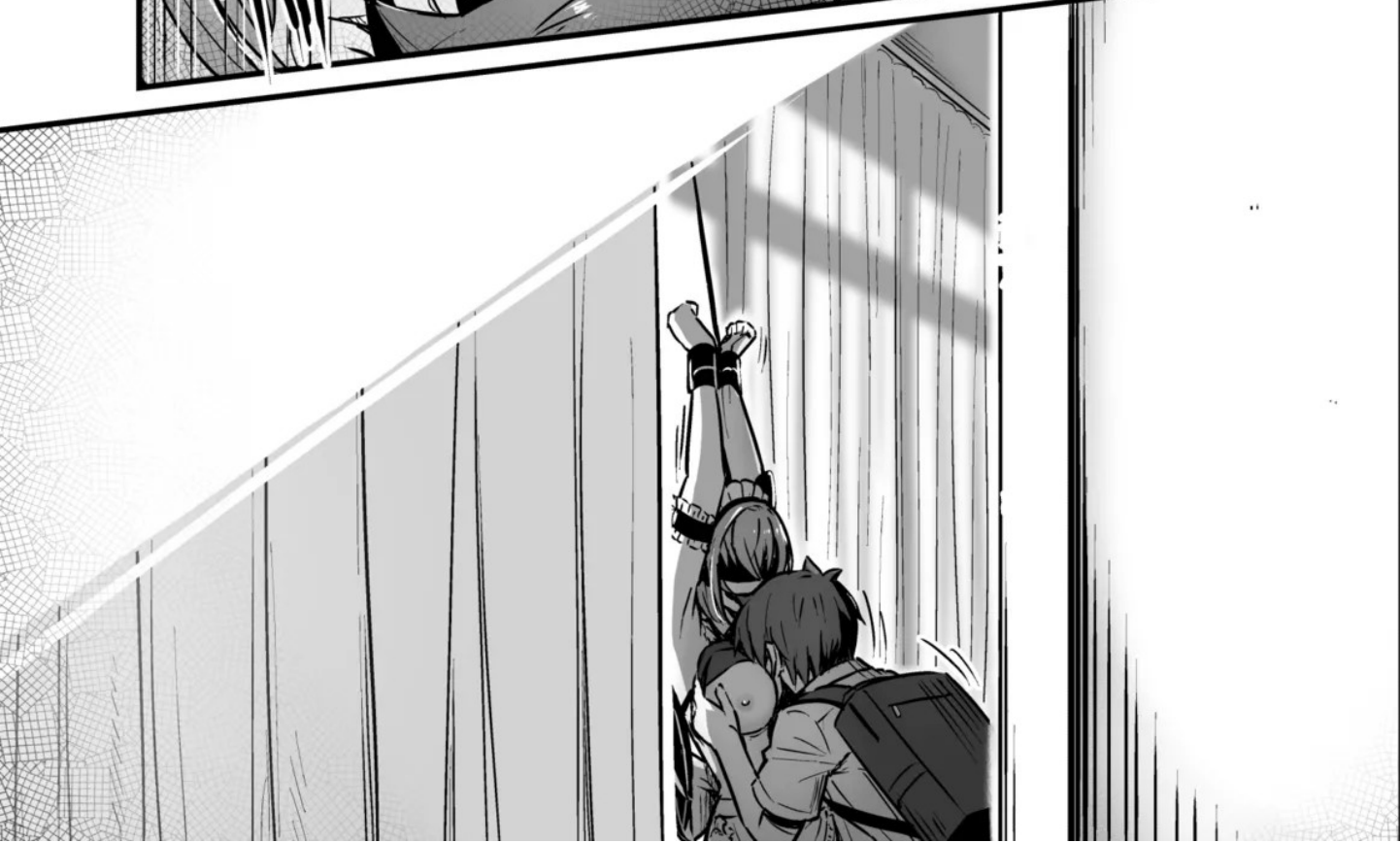
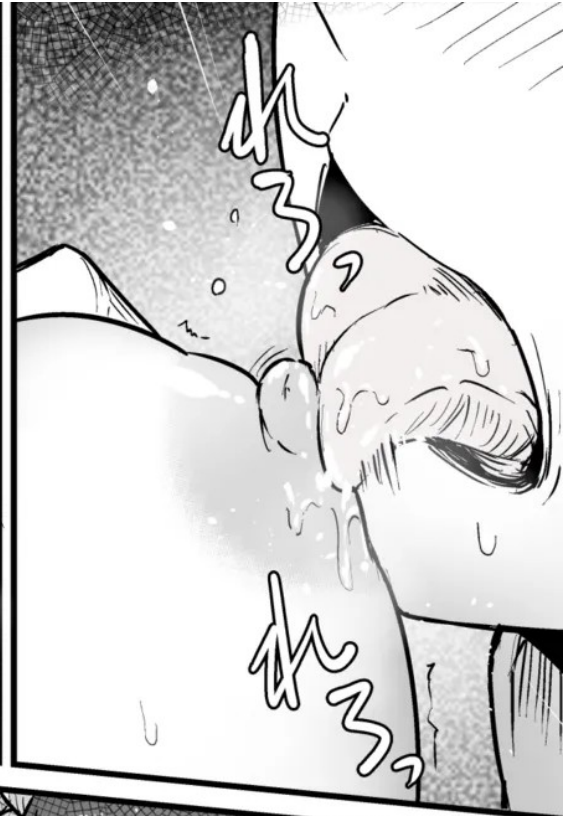
くんくん

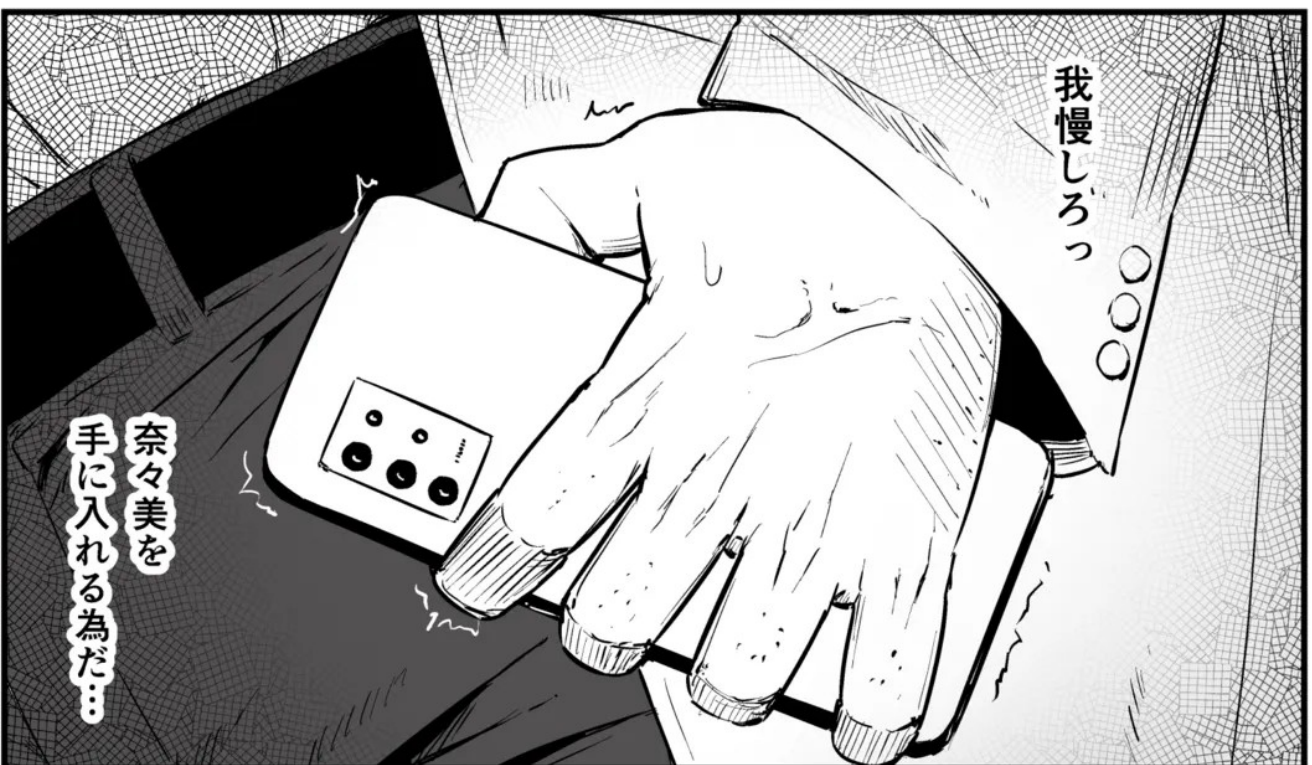
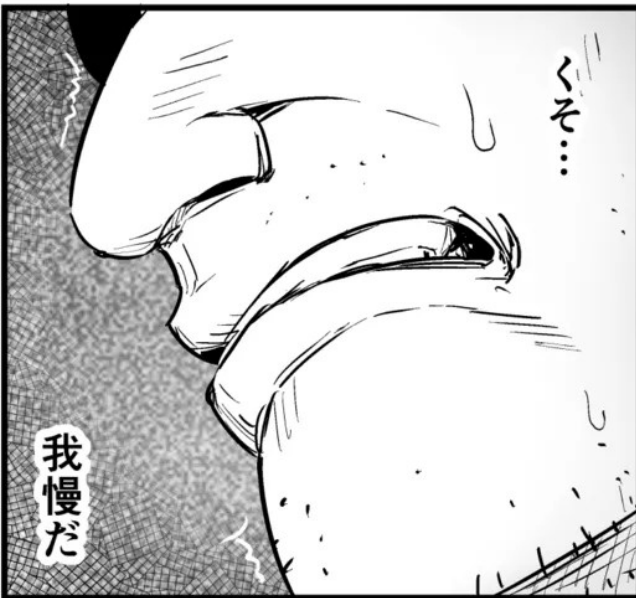
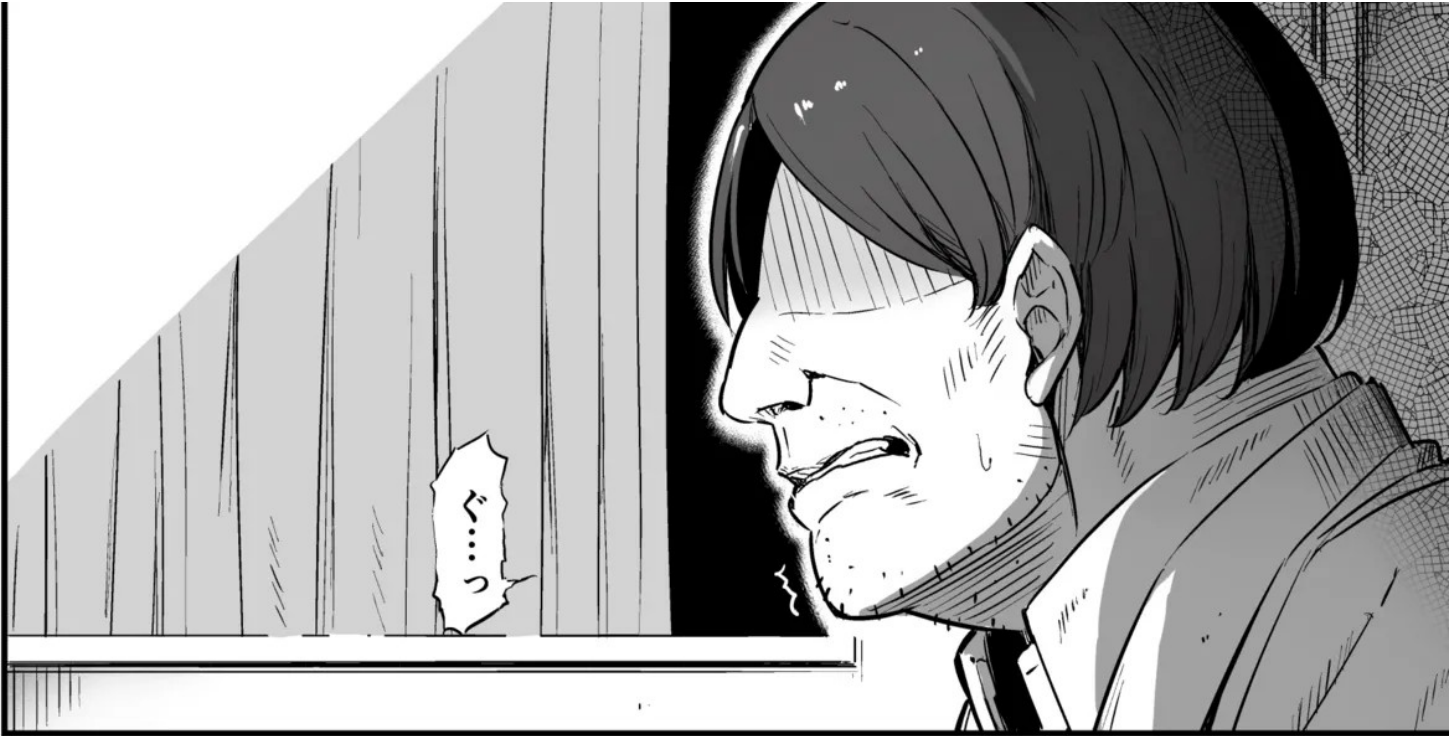
くん

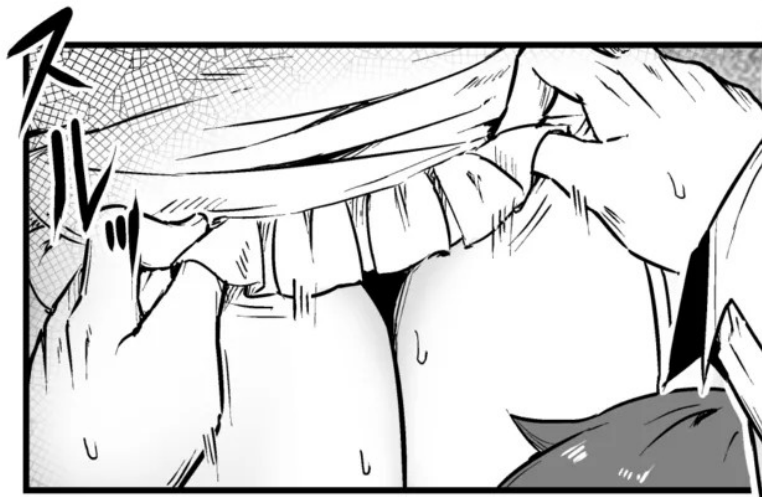
もにゅ、もにゅ、

オレの大好きな…

しゃるるる









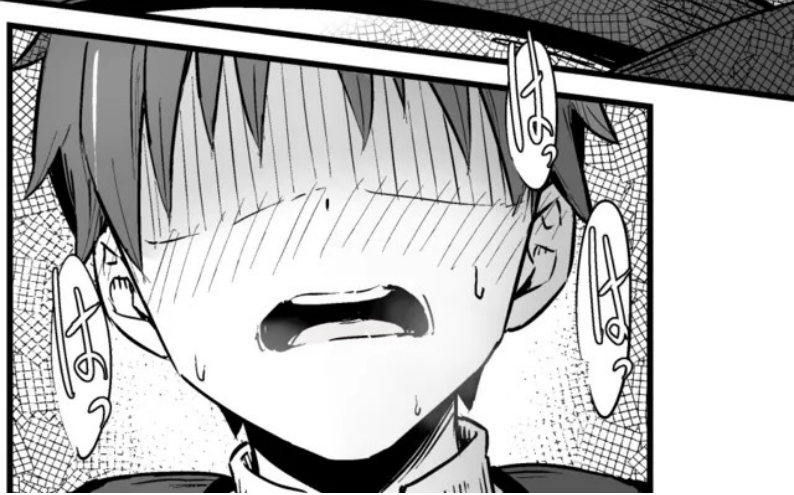
ああっ

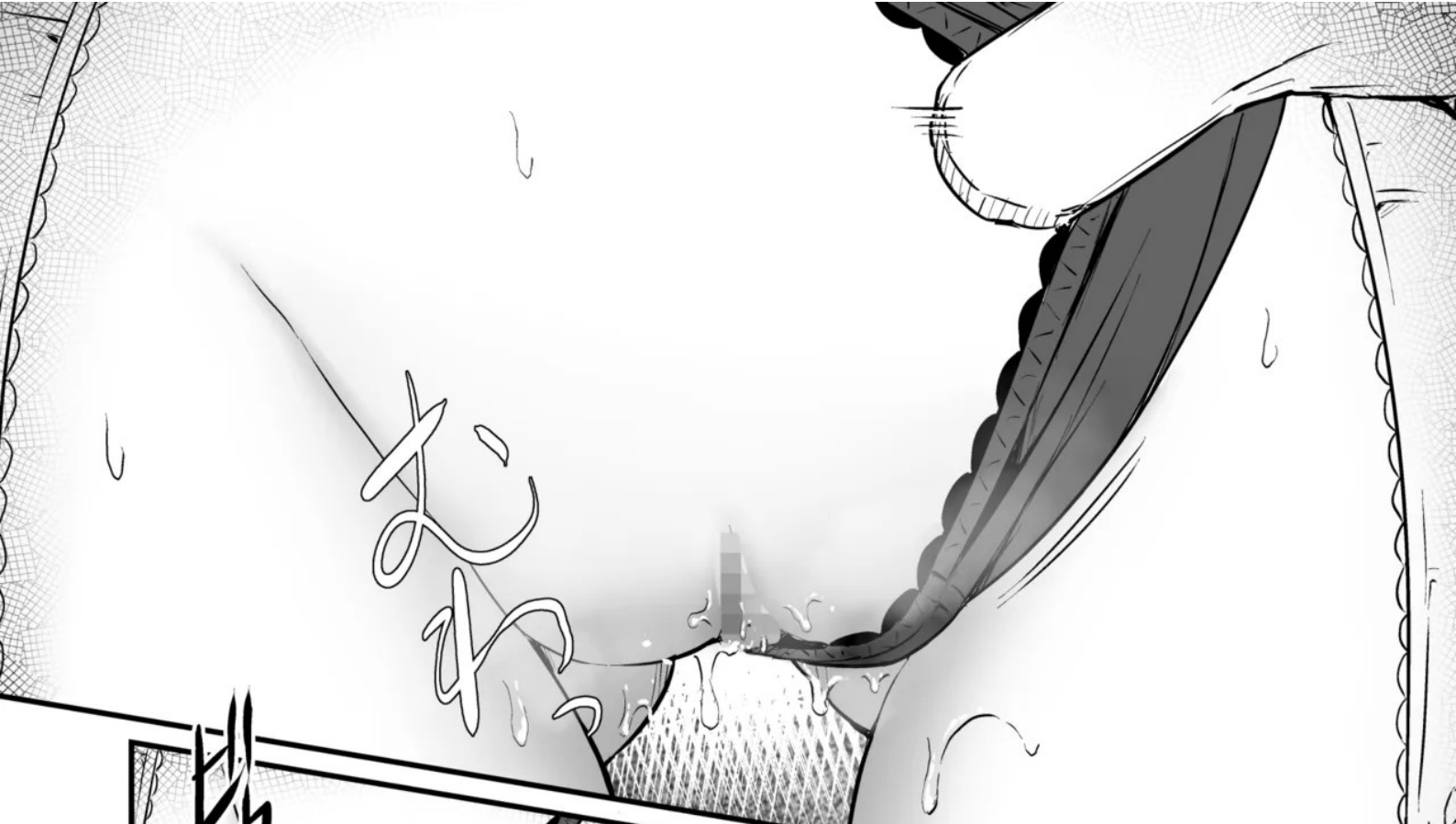
奈々美先生の  
体温っ！

奈々美先生の  
匂いっ！



じゅわ...





うわ…

おっぱ



これが

奈々美先生の…



柔らかいんだ…

しゅん

しゅん



どわっ

どわっ



吸い付く...っ



熱っ!



あの  
奈々美先生が

オレの指で  
反応してる...っ!



奈々美先生

ドロドロ...

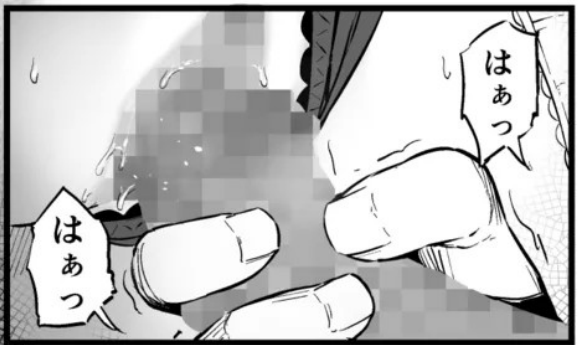
こんな腔内なかに  
ちんぽ挿入れたら

どんなに...っ

早く...

?





はあっ

はあっ

あぁあっ!

はあっ

はあっ



ふおお...

ふ...

ふ...  
ふ...  
ふ...



こ…  
これが

奈々美先生の

腔内…

すごい熱くて…

ぐちよぐちよ



はあっ!

はあっ!

溶ける…っ!



気持ちいいっ!

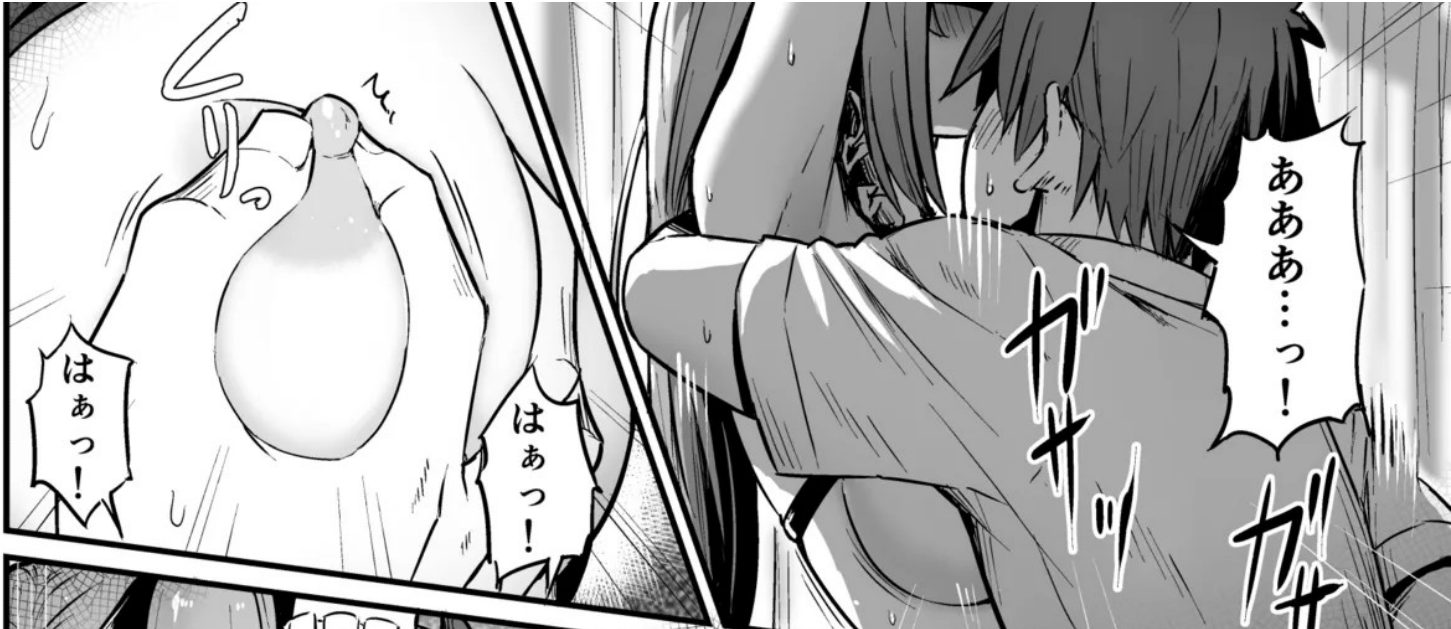


ダメだと  
思っていたながら

いつも妄想していた

その奈々美先生に

オレは…っ!!



はあっ!

はあっ!

あああ...っ!

ガサッ

ガサッ



奈々美先生っ!!

ガサッ

ガサッ



好きだ!

好きだ!

くちゅっ

くちゅっ

くちゅっ

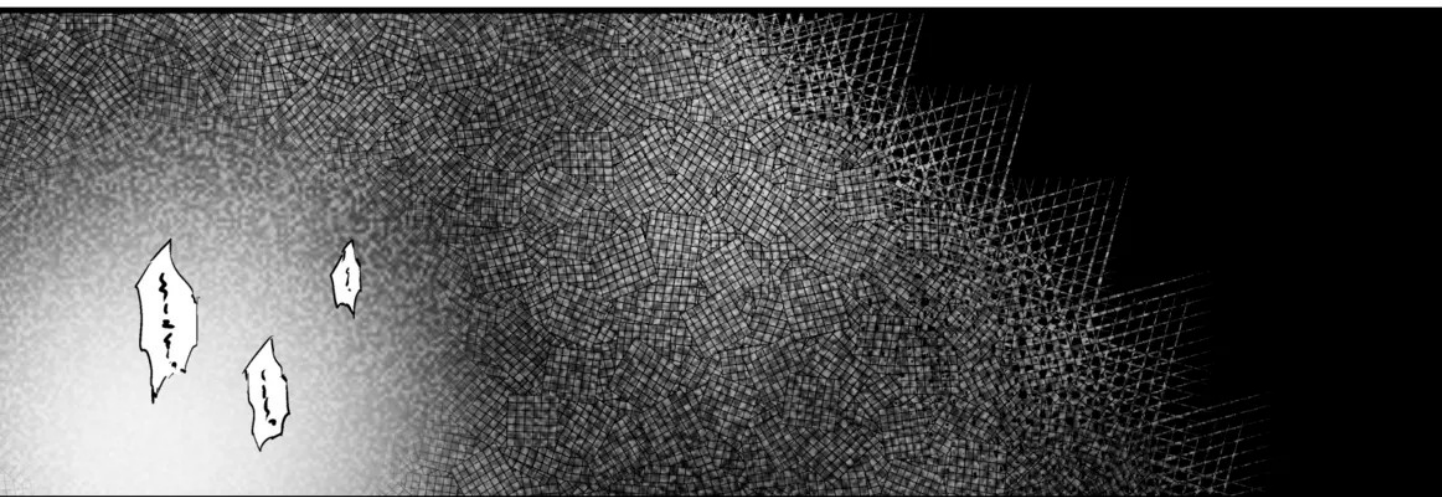
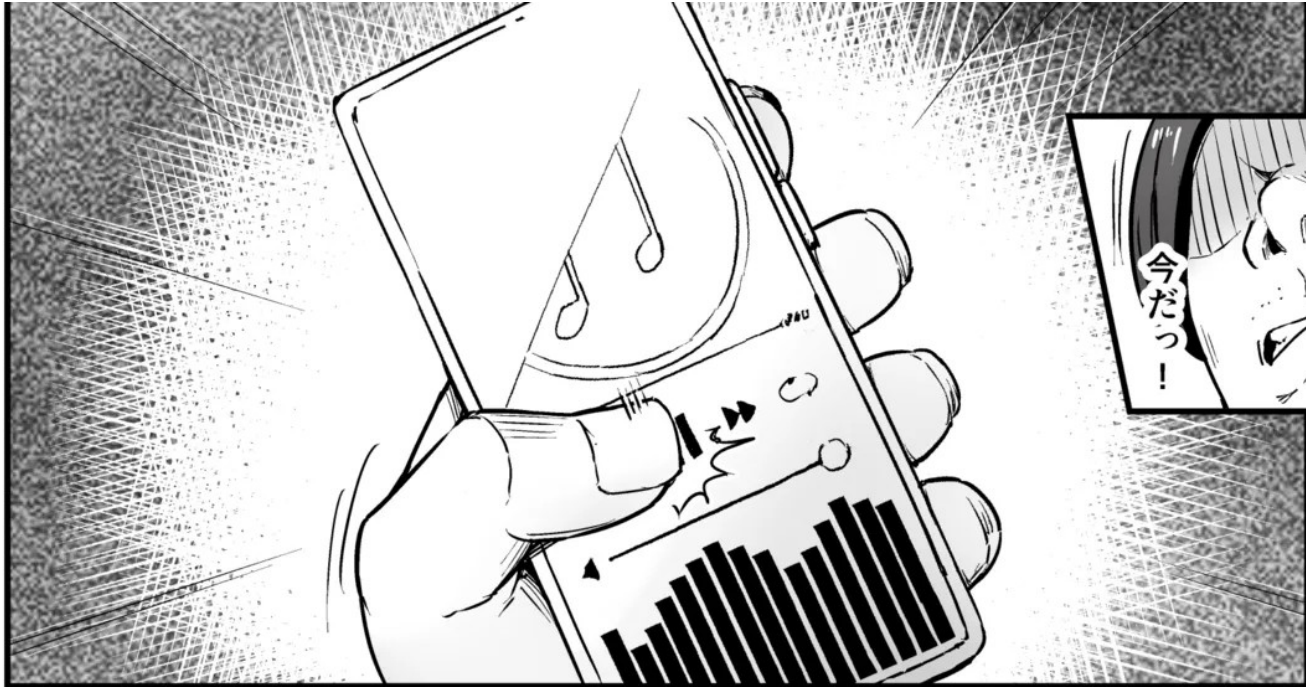
好きだ!!

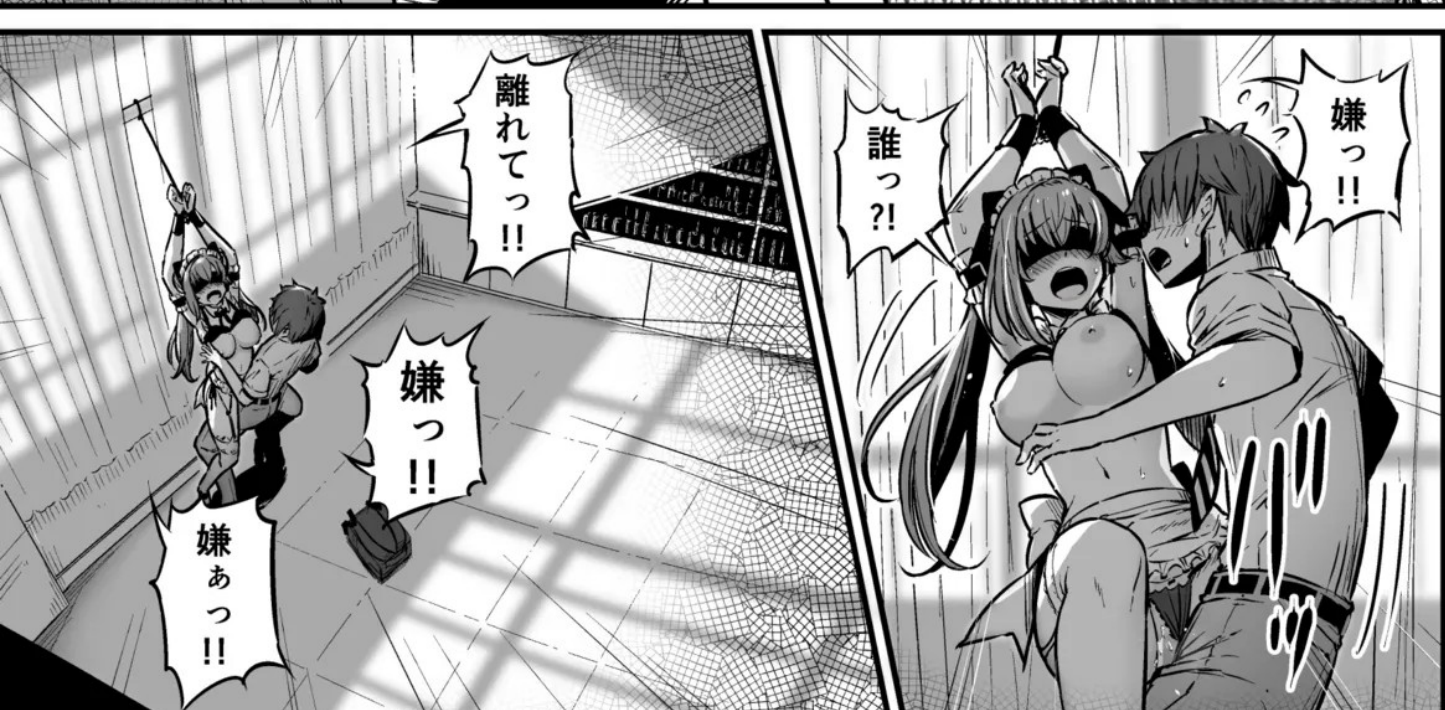
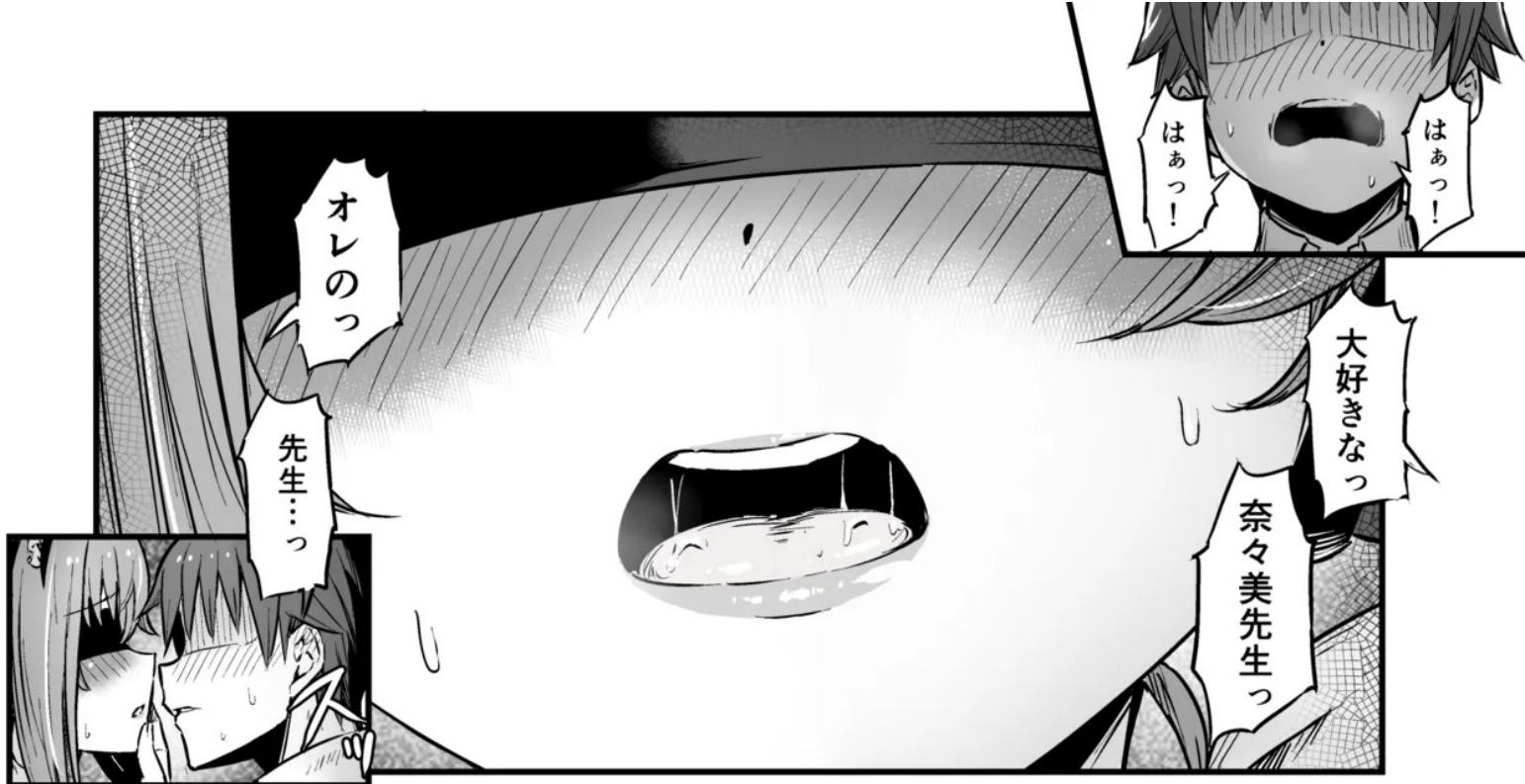


ガサッ

ガサッ

ガサッ







はっはっは!

やっぱり  
僕じゃなきや  
嫌かっ!



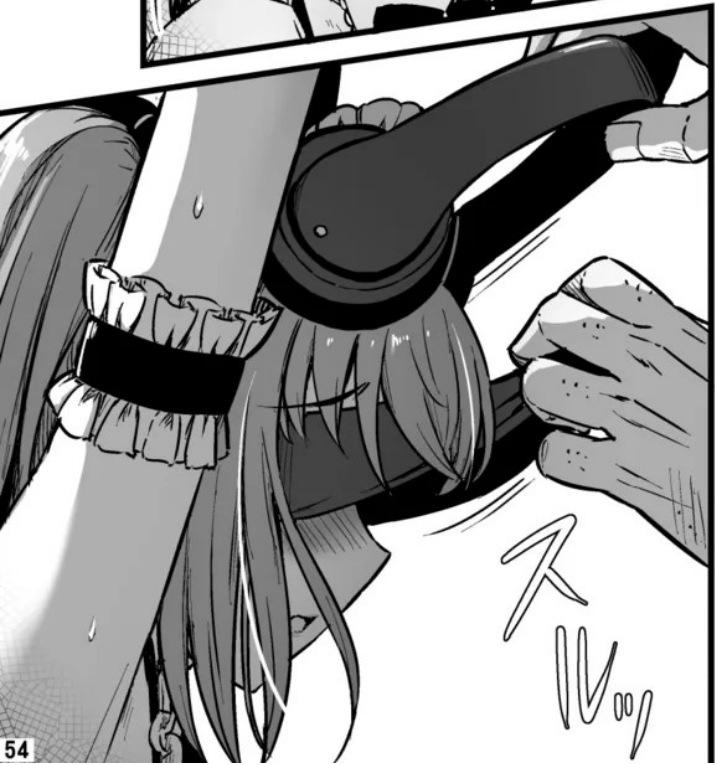
いつまで  
やってる!?

早く  
離れろっ!



ああ奈々美

さぞ辛かったろう

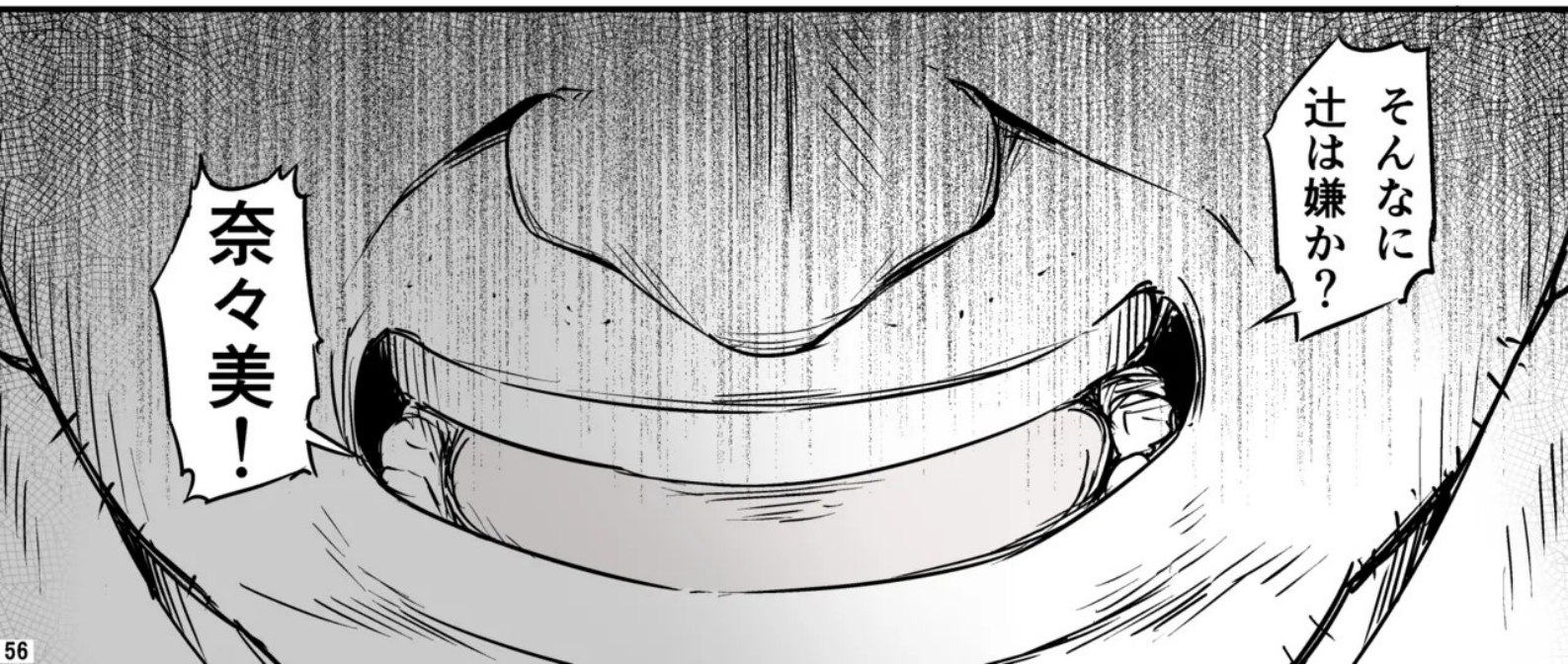
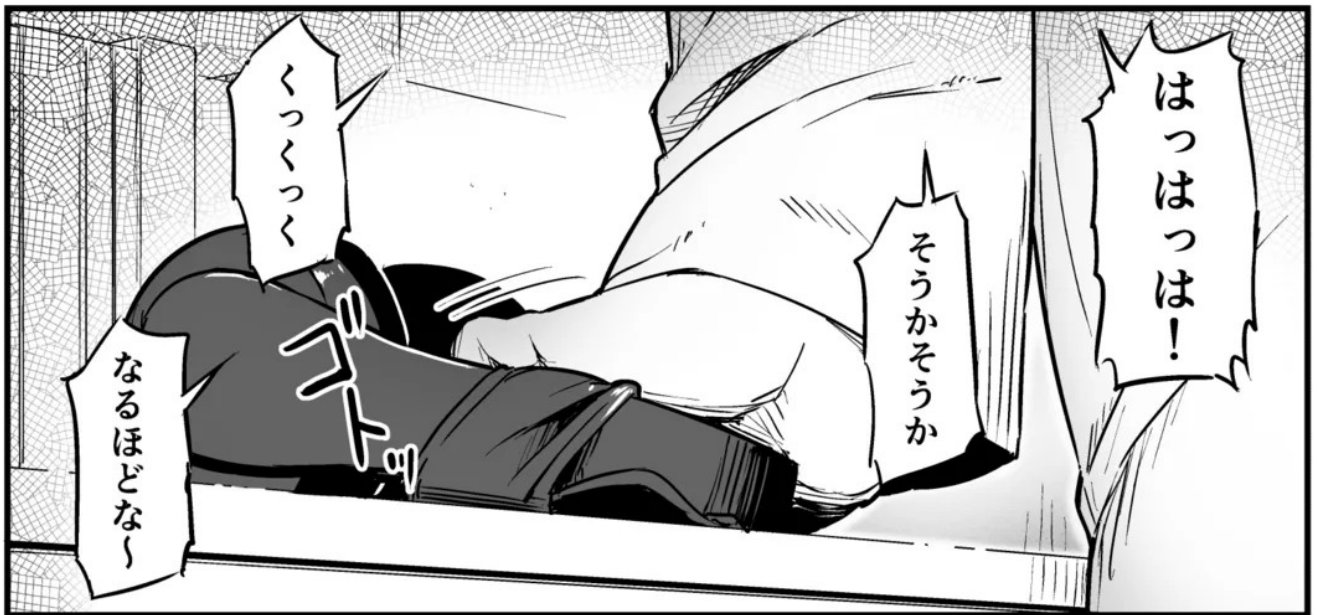


うわっ!

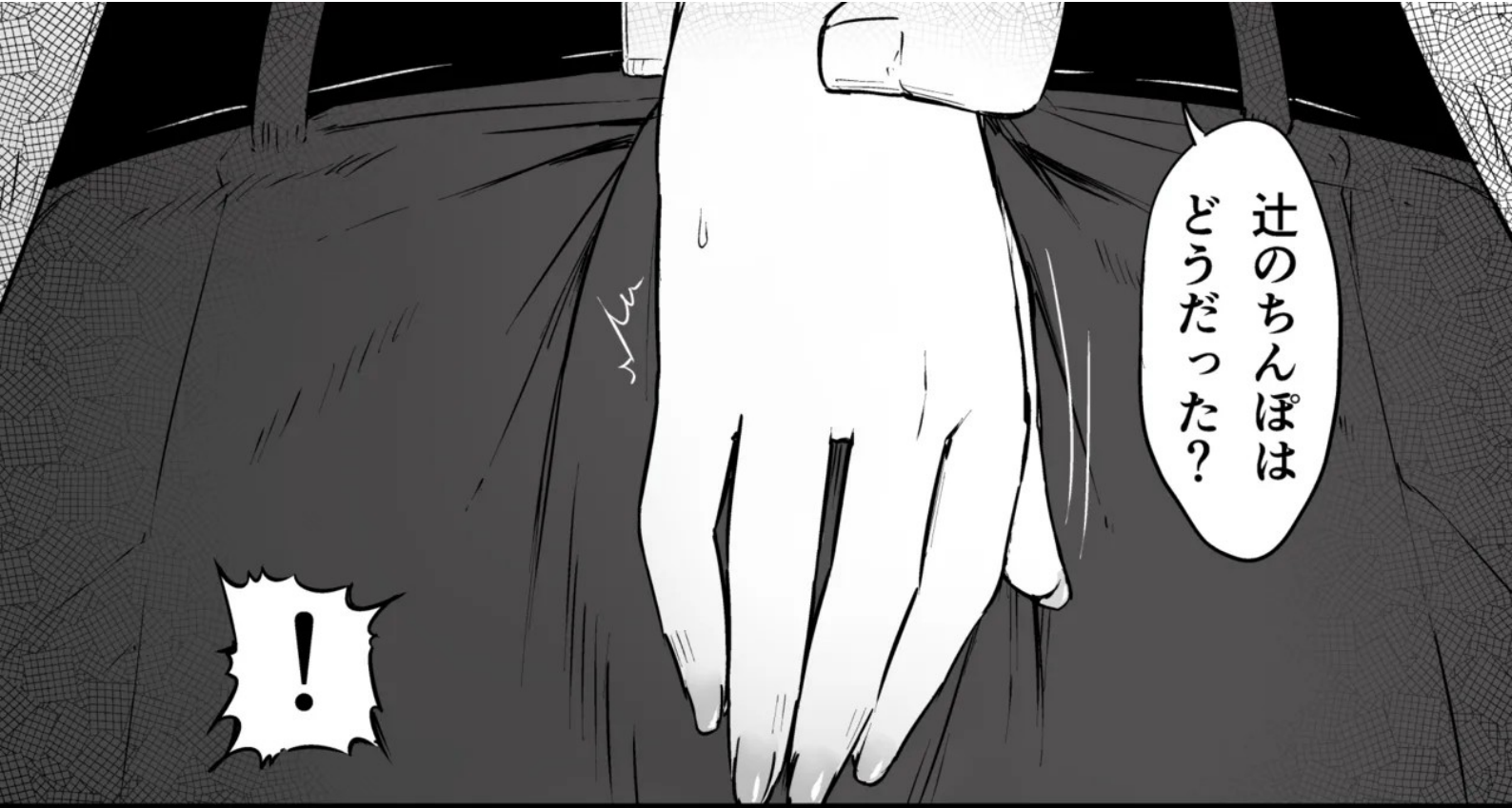


辻……くん？

……え……？







辻のちんぽは  
どうだった？

!



全然声も  
出てなかったな

僕との時は  
あれだけ声をあげるのに

満足できなかったんじゃないのか？



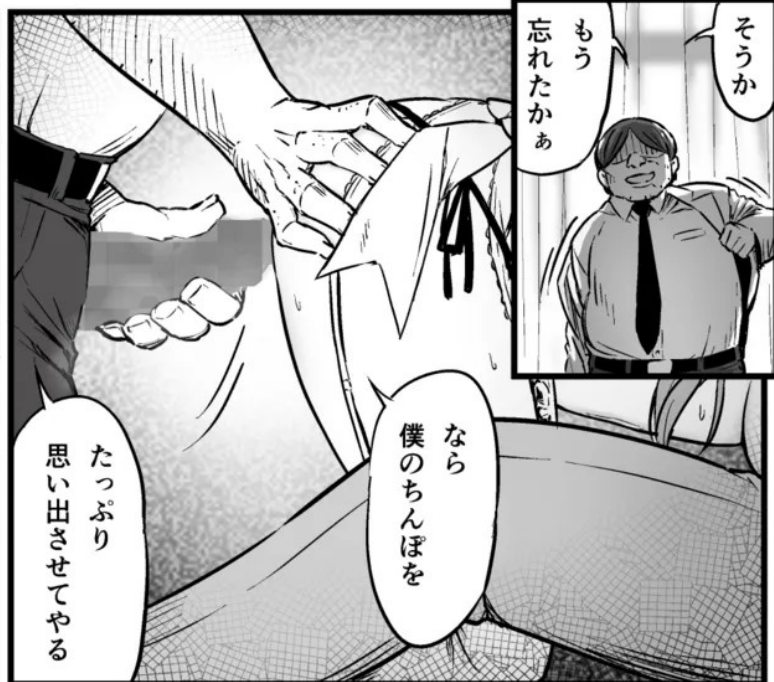
そ…

そんなこと…

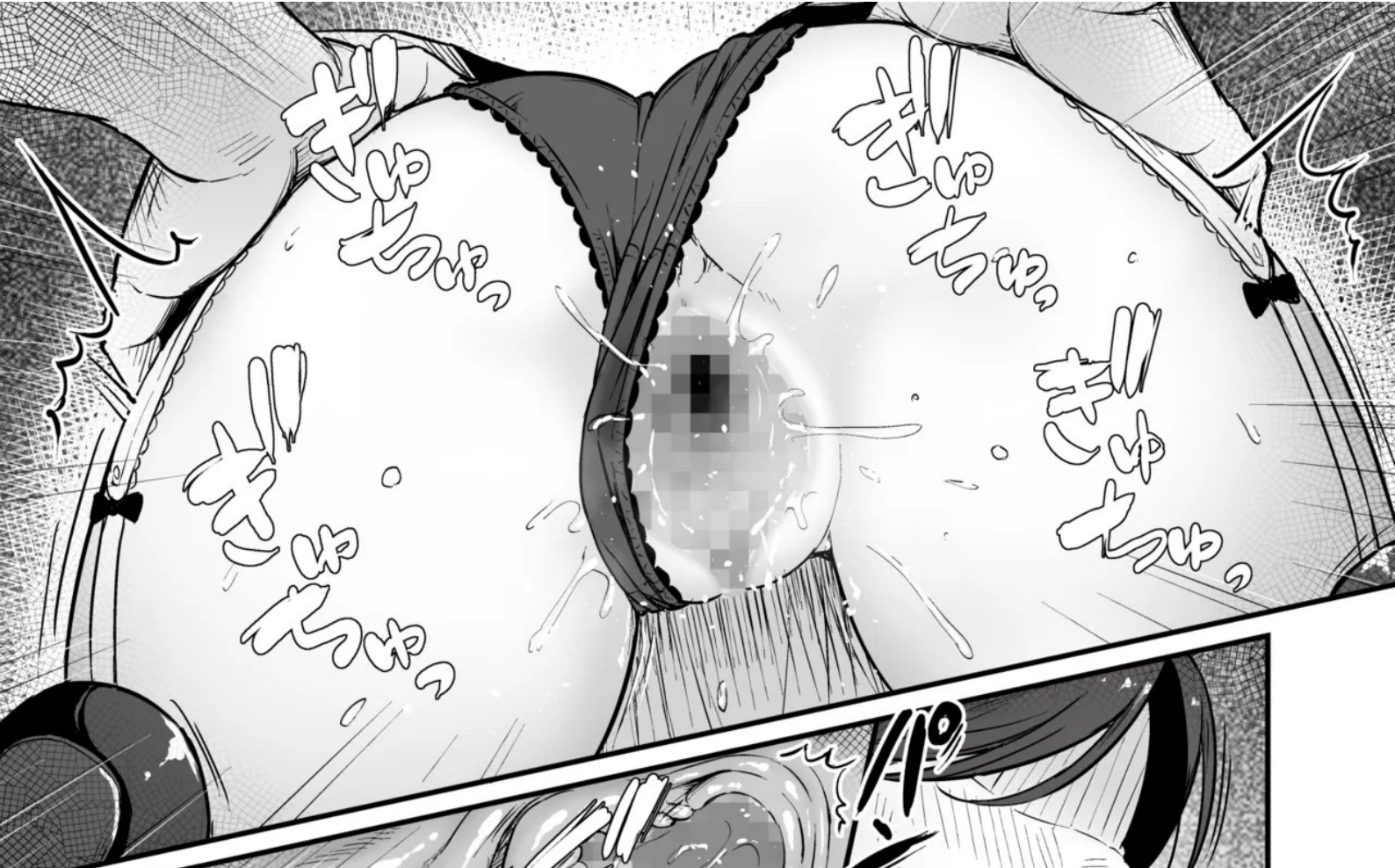


どうだ？

僕のこれが  
恋しいだろ？







ここ数日

ずっとおまえが  
待ち望んでいたものだ!

こうやって

な  
疼く膣内をつ

掻き回して  
欲しかったんだろっ?!

奈々美先生...

オレの時とは  
全然違う...

こいつのが  
そんなに



気持ちいいの...?









ここを  
擦ってからっ

あーっ  
あーっ  
あーっ



こうだっ!!

あーっ  
あーっ  
あーっ



まだ  
分からないのかっ!?

おまえの身体は  
僕が一番知っているんだ!

あーっ  
あーっ  
あーっ  
あーっ  
あーっ  
あーっ



ほらっ!

ほらっ!

たまらないだろ?!

ほらっ!

ほらっ!!

あーっ  
あーっ  
あーっ  
あーっ  
あーっ  
あーっ

あーっ  
あーっ  
あーっ  
あーっ  
あーっ  
あーっ



どうしたっ!?

辻のちんぽを  
放置してるぞ?!

しゃぶってみろ!

ほらっ!

しゃぶってみろ!!

しゅわっ  
しゅわっ  
しゅわっ  
しゅわっ

あ  
あ  
あ  
あ



辻ではなく  
僕なんだ!!

はあ

はあ

僕しか  
居ないんだっ!



おまえをこんなに  
分かってやれるのは

ぐちゃっ  
ぐちゃっ  
ぐちゃっ  
ぐちゃっ



奈々美先生...

膣内なかが  
きゅきゅっと  
締まってきたな!

いきそうなんだろ?!

もちろん  
分かってるぞ?!

ほらいけっ!

いけっ!

辻なんか  
無視して

盛大にっ

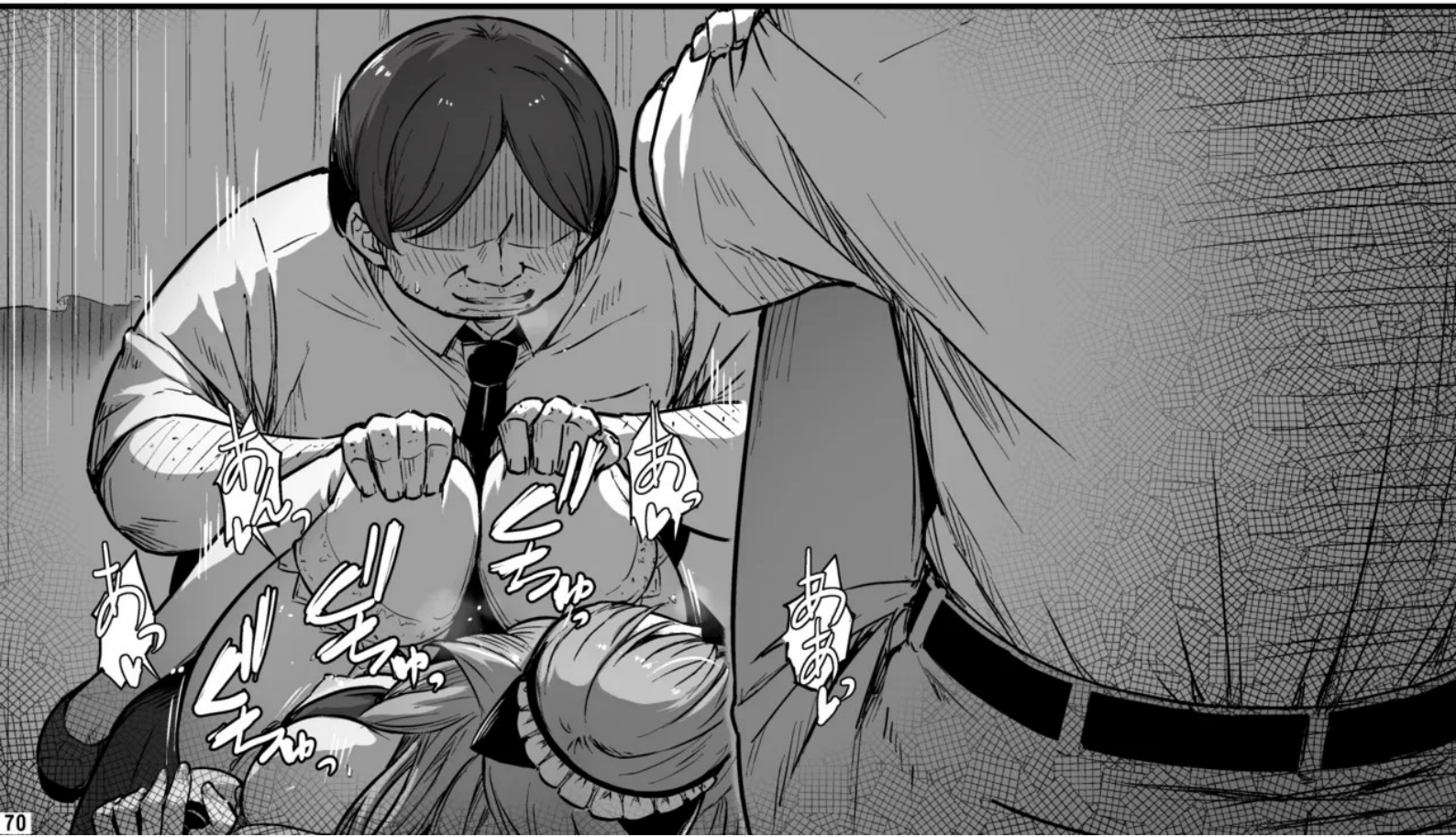
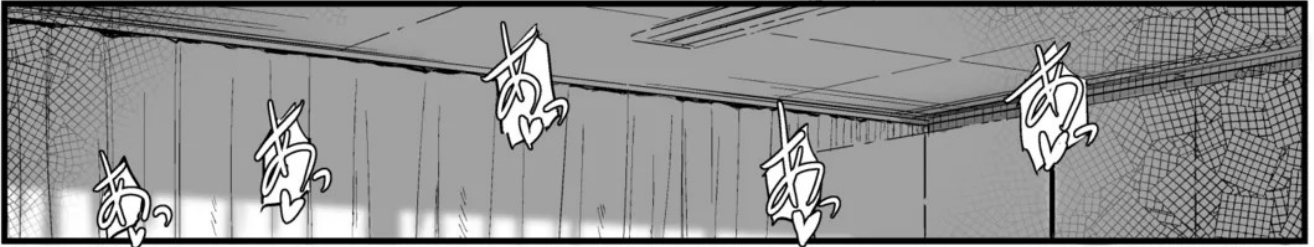
いけっ!!

あああ!!

どうだ分かったか

おまえは  
辻なんかより

僕を  
愛しているんだ





あー絞まる

おや  
おや

おや  
おや

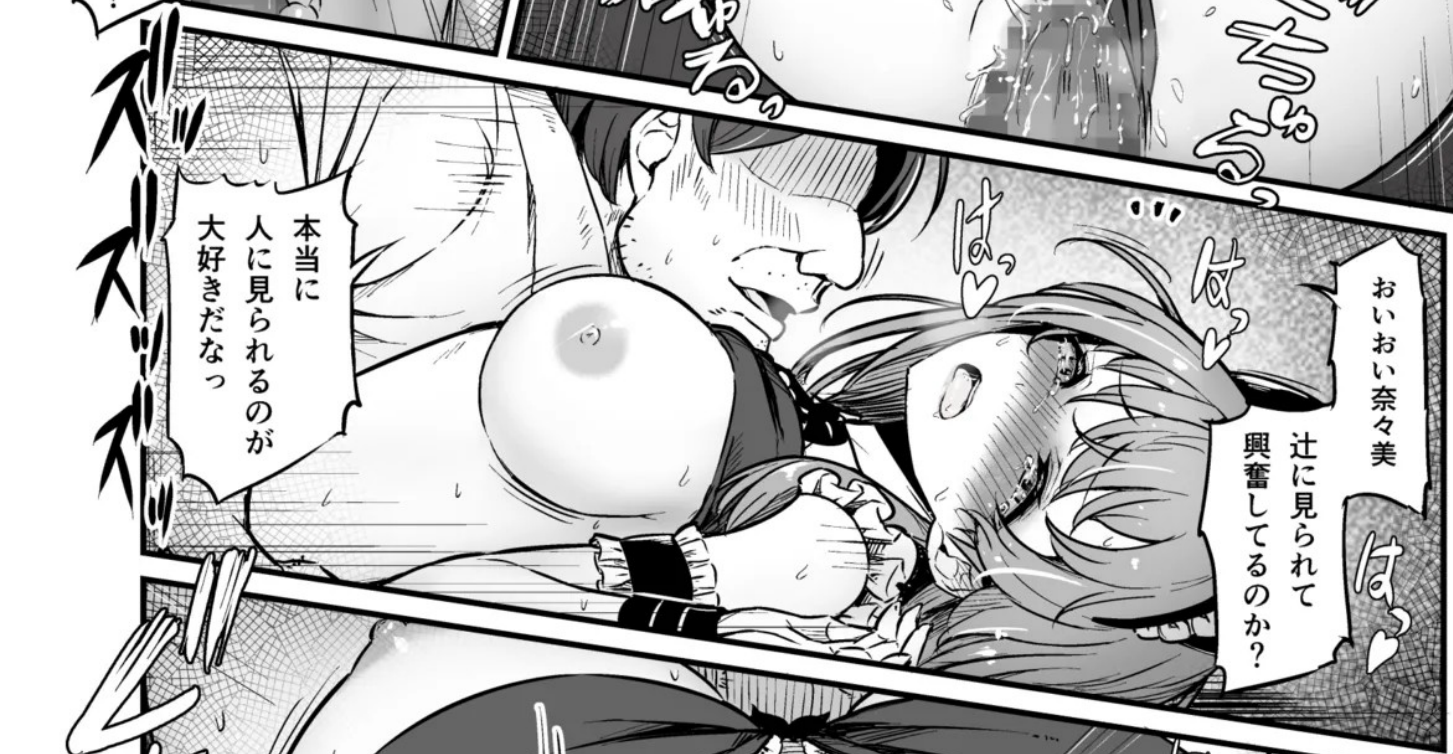
おや  
おや

いきっぱなしだな!

ぐちゃる

ぐちゃる

ぐちゃる  
ぐちゃる



おいおい奈々美

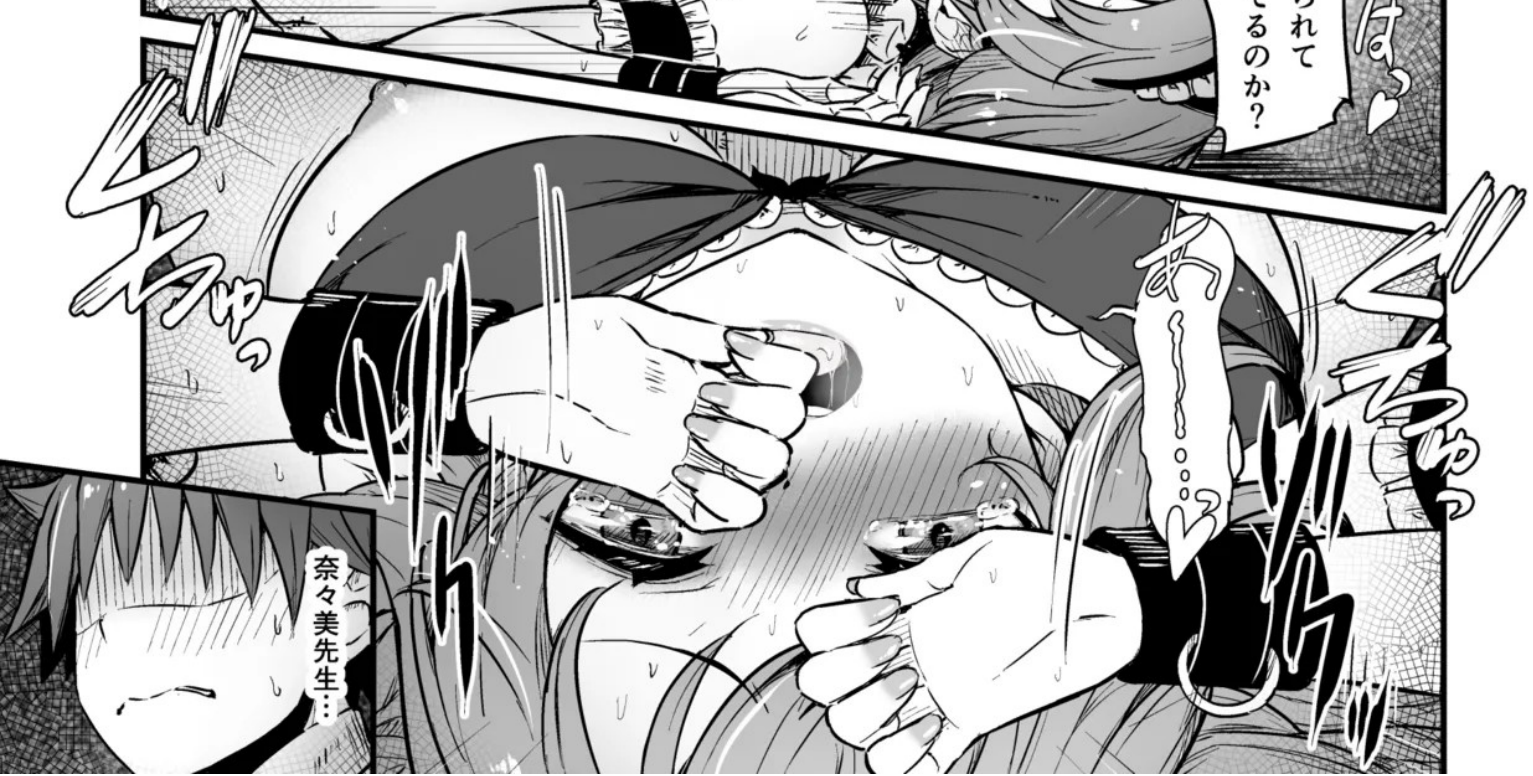
辻に見られて興奮してるのか?

はっ

本当に人に見られるのが好きだな

はっ

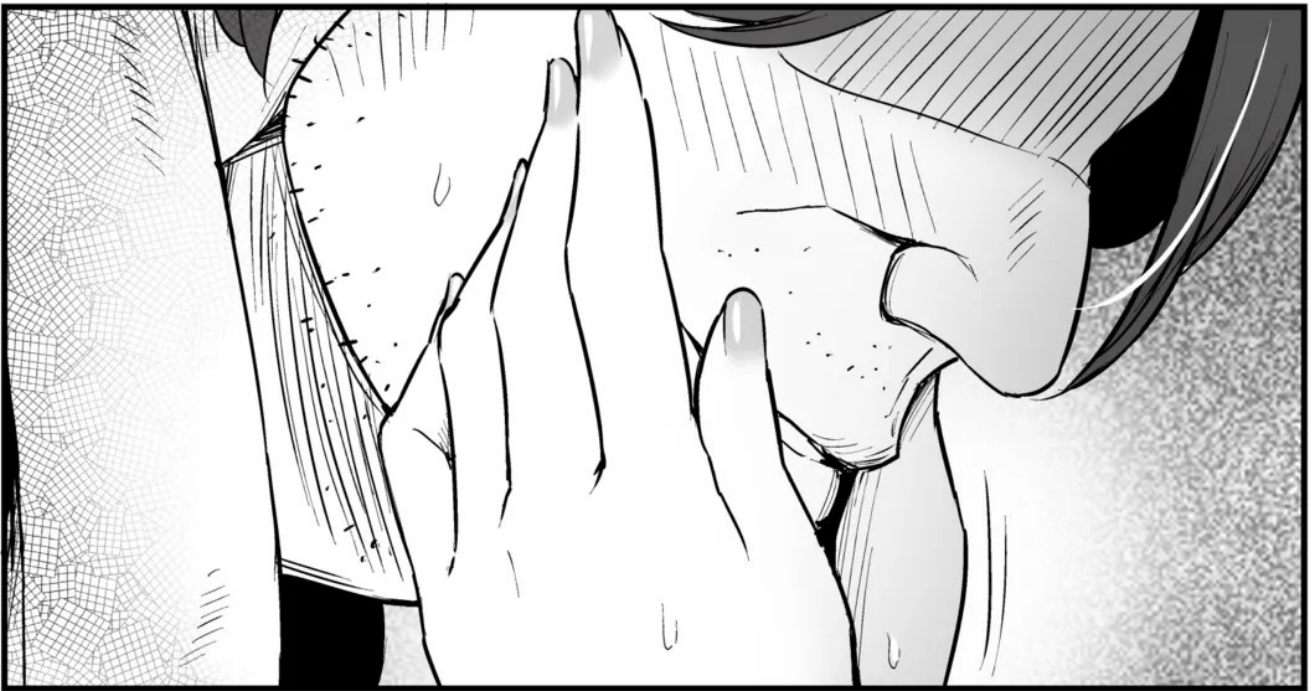
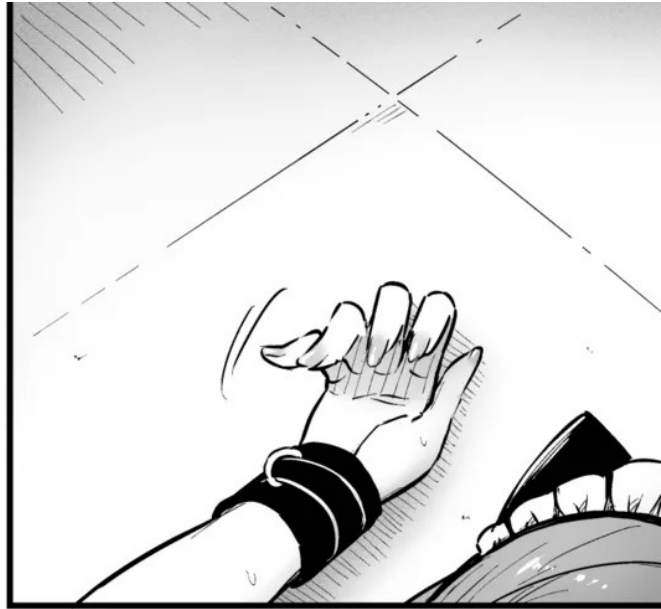
はっ



奈々美先生!

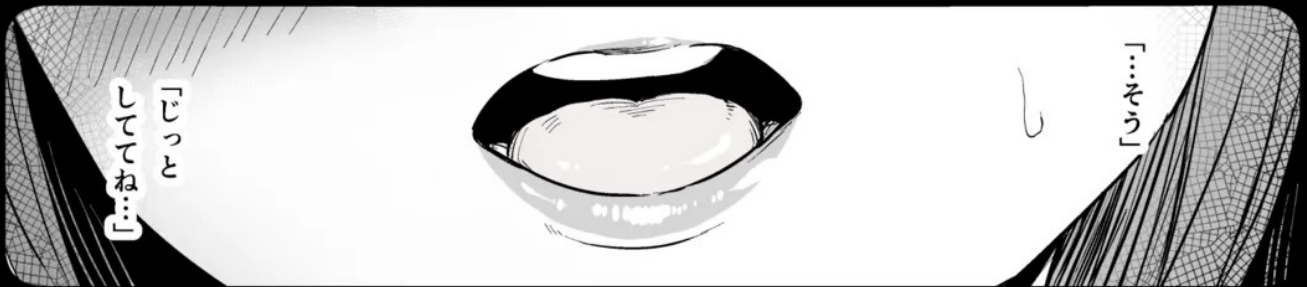








「少し屈んで？」



「...  
しててね」

「...  
し」





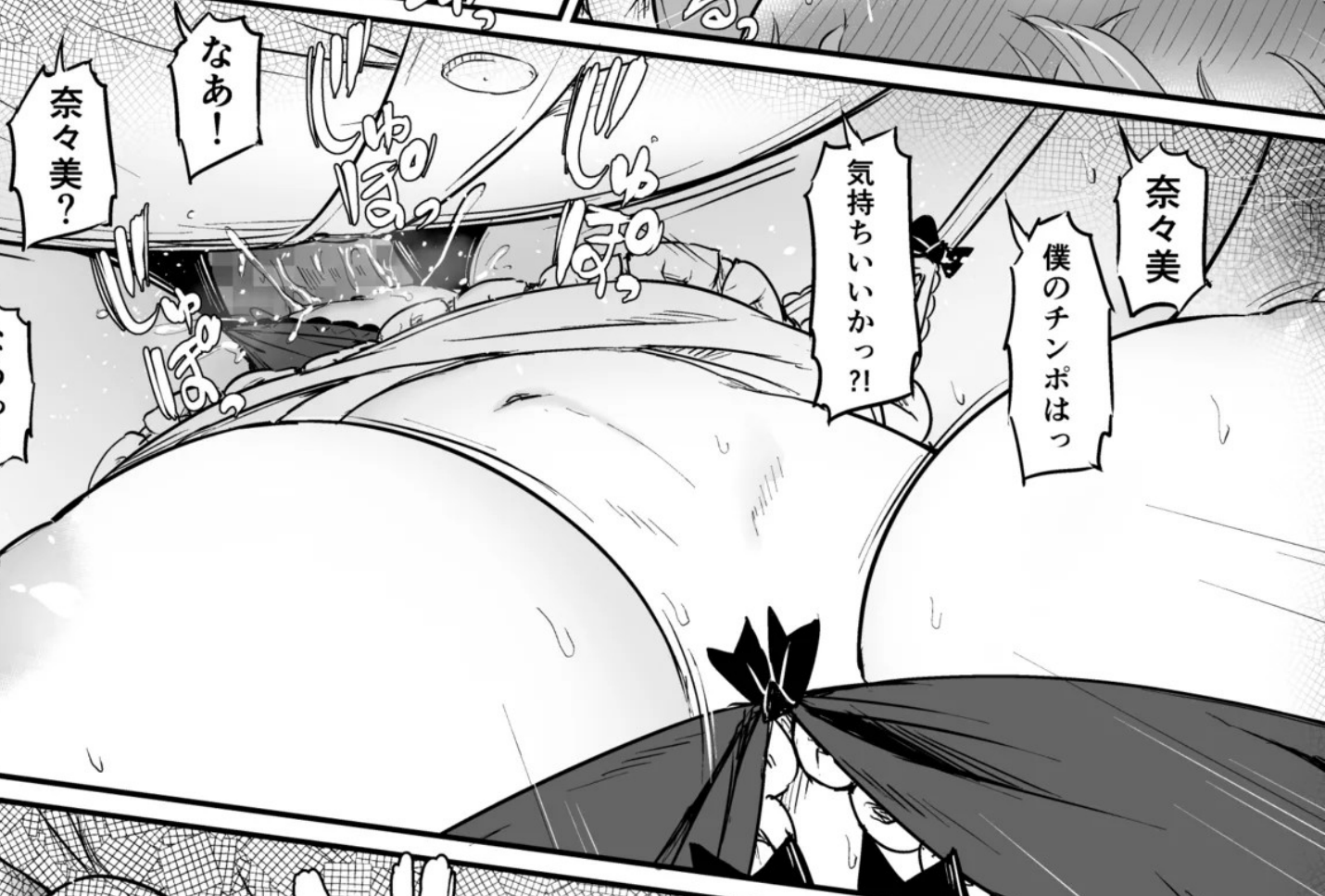




奈々美の  
マンコは  
最高だ

気持ちいいー

あー



奈々美?

なあ!

なあっ!

気持ちいいかっ?!

奈々美  
僕のチンポはっ



ひまぢ...





おお…っ?!

おおお…っ!!

く…っ

奈々美…っ

くあ…っ!

はあ…っ  
はあ…っ

最高だっ!

奈々美…っ!

奈々美っ!

奈々美…っ！

僕を…っ

愛しているかっ?!

イかせて  
欲しいなら…っ

答えろっ！

奈々美っ!!

はあ…っ

はあ…っ

愛しているかあっ?!





愛してますっ!!

愛していますっ!!



んれしんぞ  
んんみい!

まいしてんぞ!!  
もんも

おおおっ!  
そうかっ!



愛し合う2人で

一緒にっ  
イクぞっ!



どこに欲しい?!

言ってみろっ!?

よしっ!

膣内なかにっ

射精だすぞっ!

膣内なかに…っ!

な…っ





うぐぐぐっ！



ふんっ！

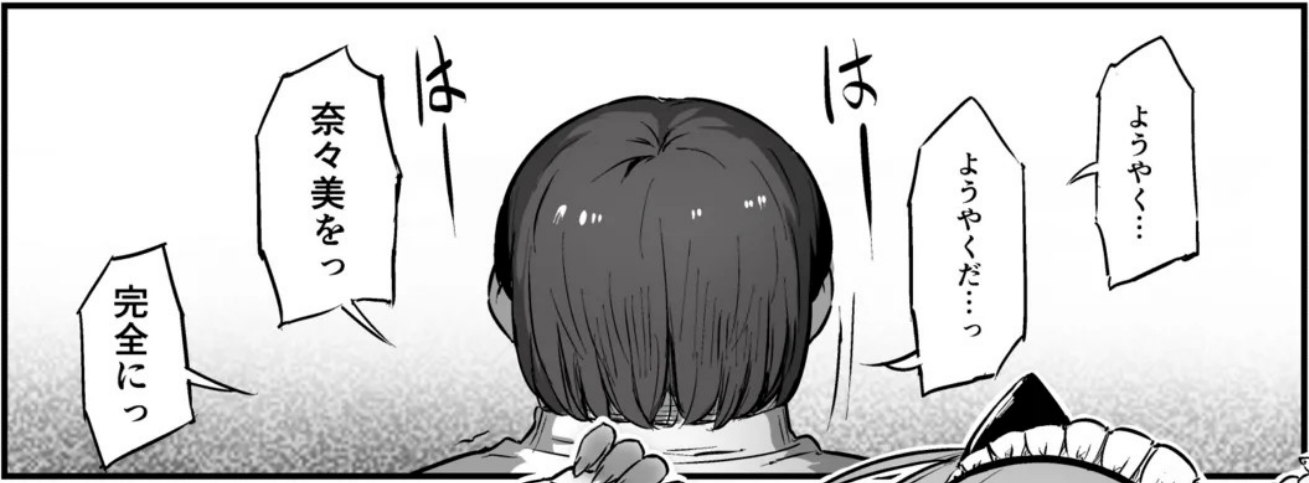
ふんっ！

ふんっ！

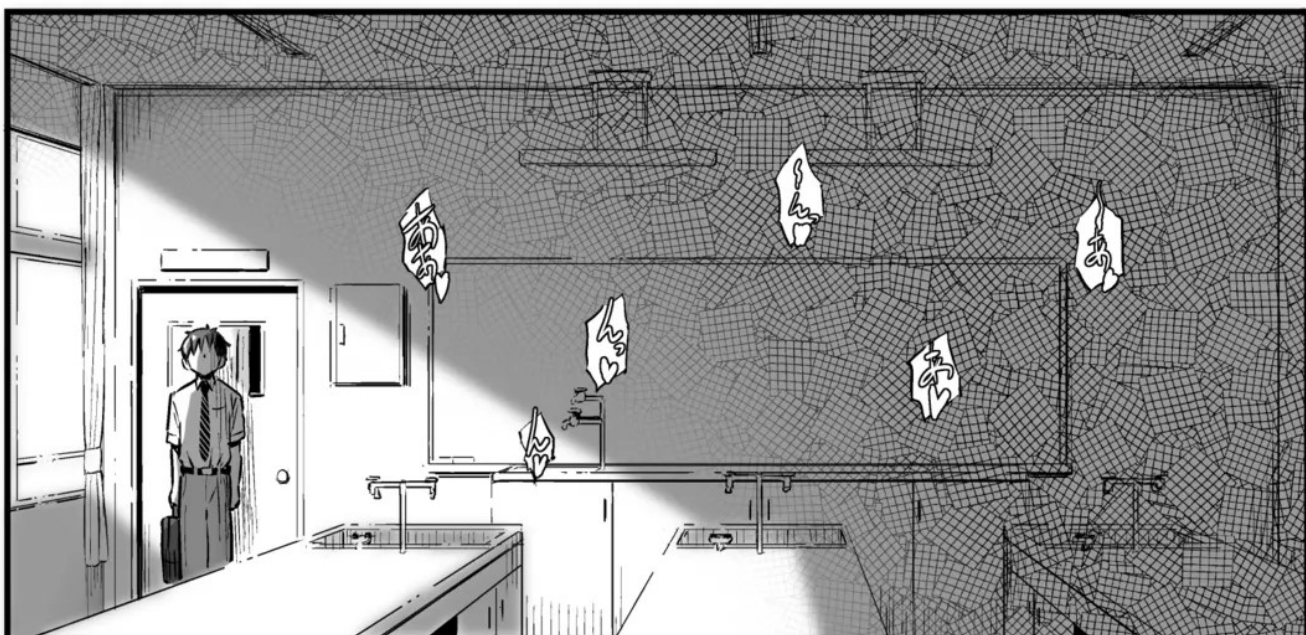
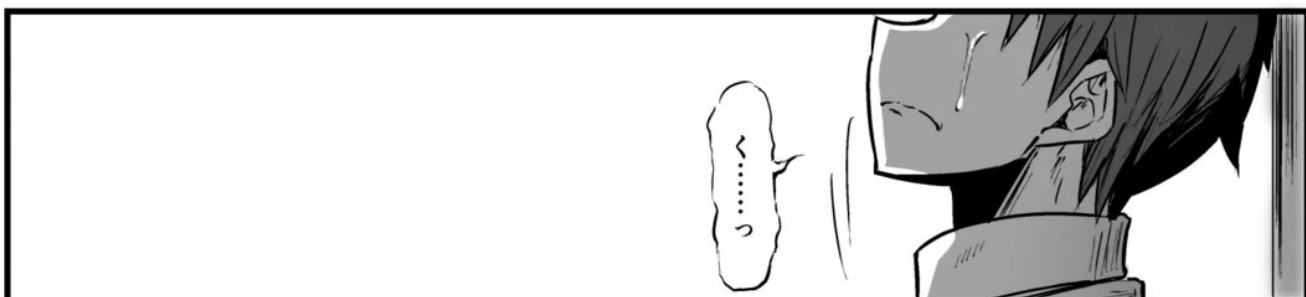
フツフツ



ふんんっ！！



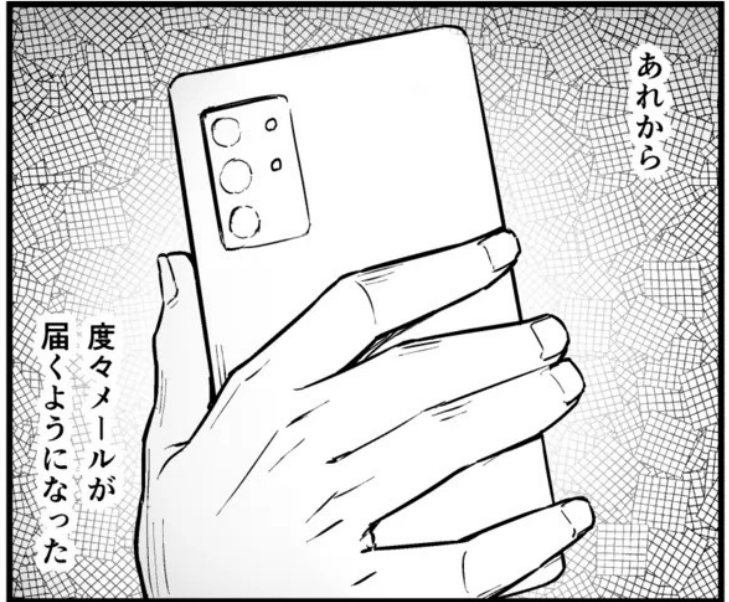






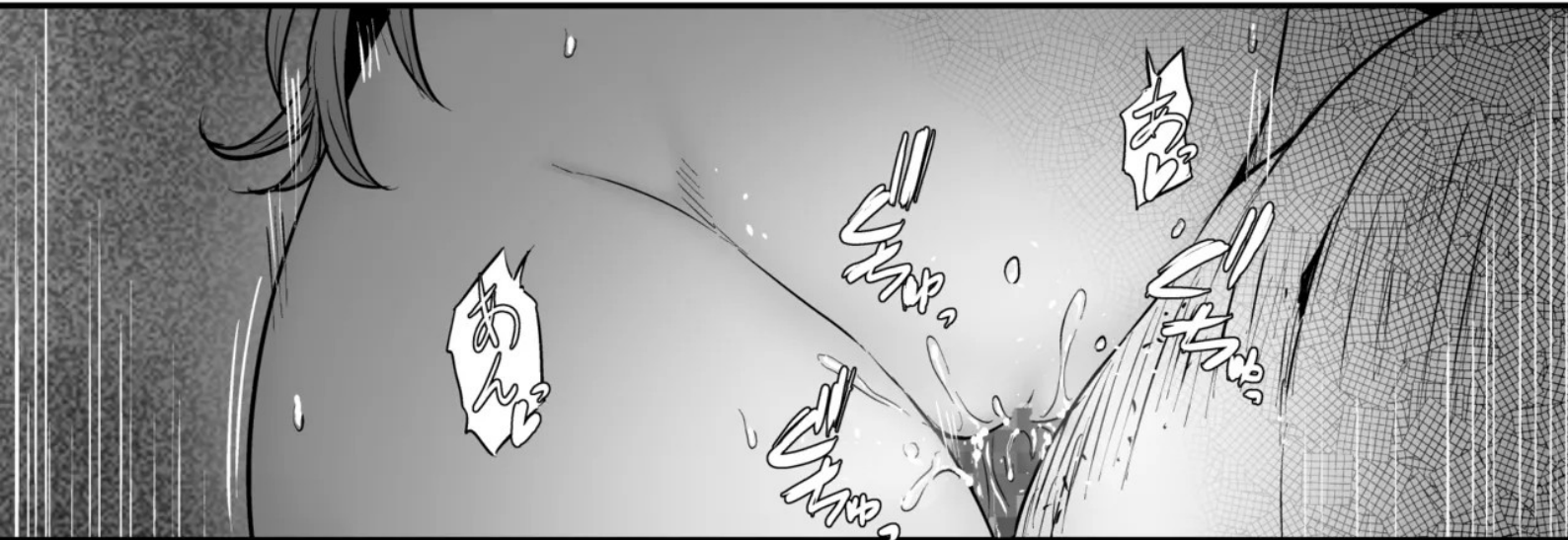
内容は  
場所と時間

それだけ



あれから

度々メールが  
届くようになった



あん?

splash sound effects

あ

splash sound effects



06:00  
職員室

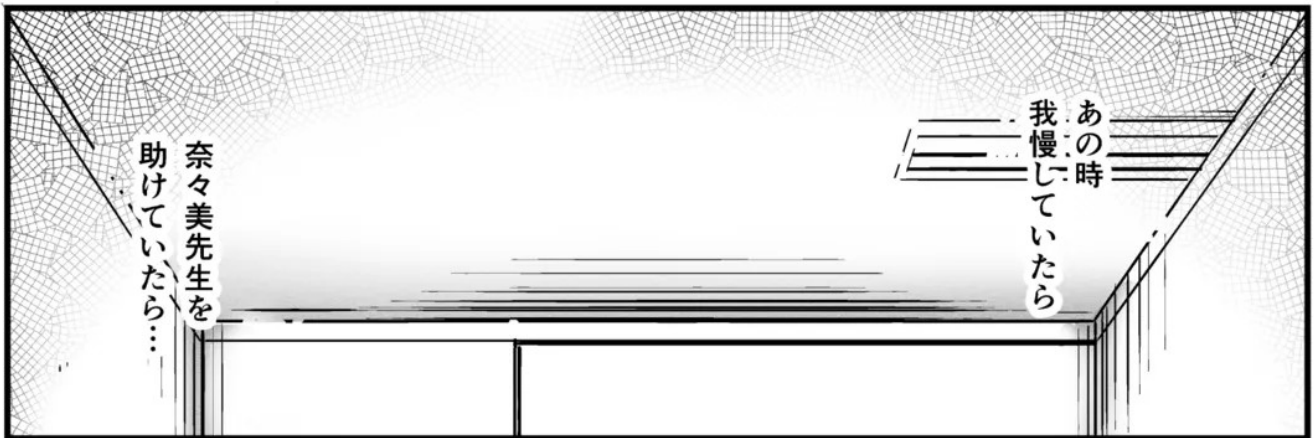
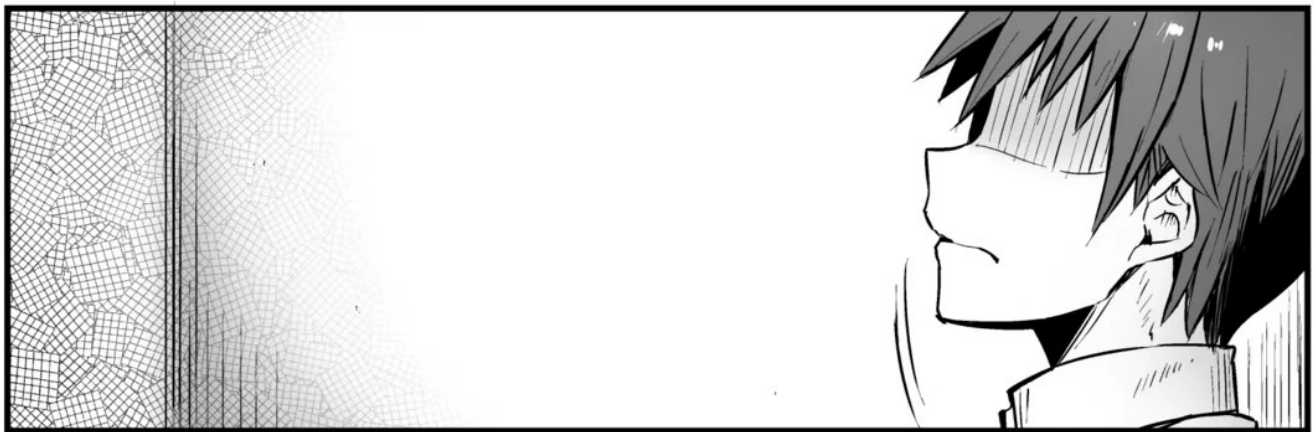
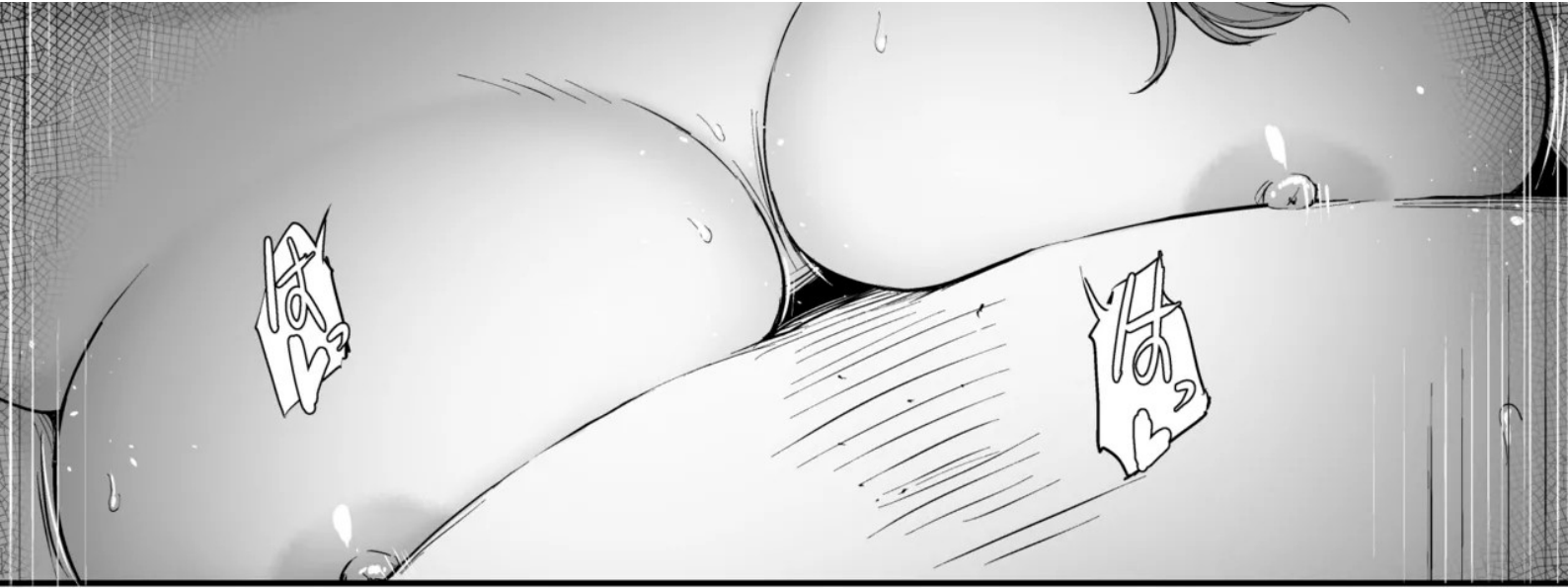
13:00  
化学準備

誰が送っているかは  
分からない

17:00  
芋準備室

返信する気は  
しなかった

16:30  
教員用トイレ

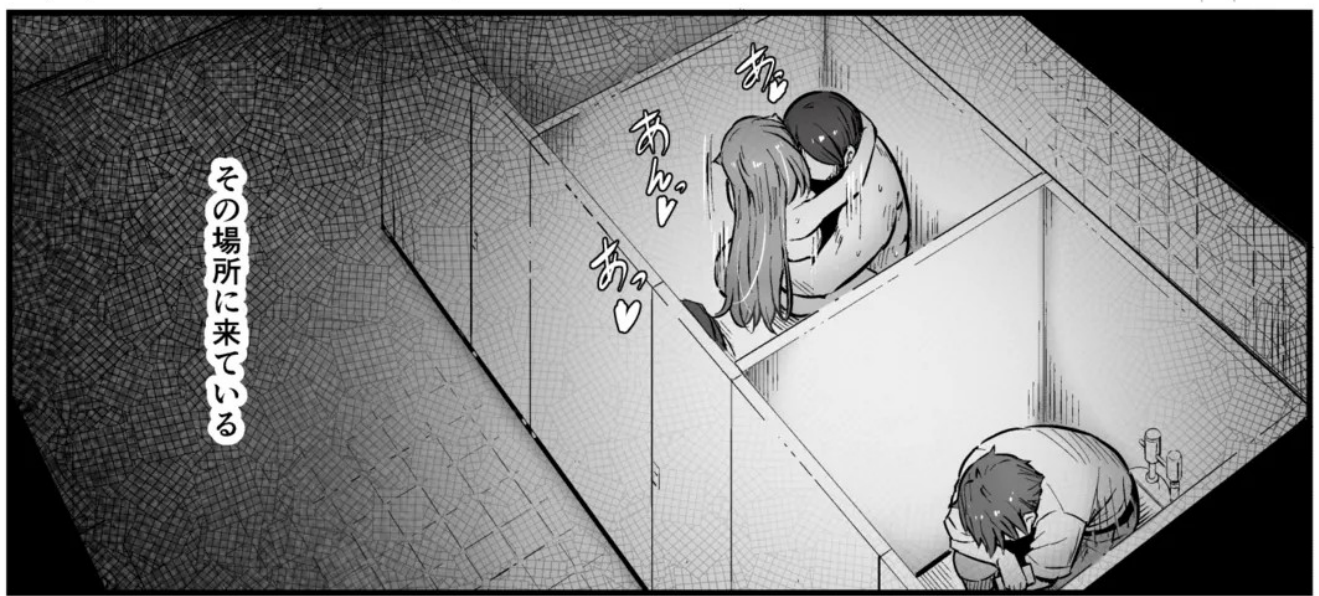




そんなことを

そんな無駄なことを  
考えながら

今日も  
その指定時間



その場所に来ている

続編のご希望が多数ございましたので、予定に無かった続編を制作いたしました。

これまでよりもっと長編で(笑)

完成まで持ってこれたのは、fanboxでのご支援のおかげです。

それが無ければ、売れるかどうか分からないこんな長編、怖くて制作できませんでした。

本当にありがとうございました。

まあ、そこでのご要望やアドバイスをできるだけ入れたのが、長編になってしまった原因とも言えますが(笑)

自分がやりたいことを最優先にしつつ、入れてもブレない物はできるだけ入れました。

これがご支援のお礼になれば幸いです。

そして今作を購入してくださった方々。

おそらく前2作を購入してくださったと思います。

そのおかげで続編を作れました。本当にありがとうございました。

次回がありましたらまたよろしく願いいたします。

Piro

●email : [pirokobo@gmail.com](mailto:pirokobo@gmail.com)

●X(twitter) : <https://x.com/Piro409>

●pixivID : 483430

●fanbox : <https://piro.fanbox.cc/>

新作を制作する場合は、最初(ストーリーやキャラ設定)からfanboxで公開しながら作業しています。

今作品の制作中、ご支援して頂いた方々に感謝いたします。